

平成26年度仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査の 分析結果と指導改善の方策がまとまりました

今年4月に実施した「仙台市標準学力検査^{※1}」と「仙台市生活・学習状況調査^{※2}」の調査結果を6月に発表しましたが、このたび「仙台市確かな学力研修委員会^{※3}」による分析結果とそれを基にした指導改善の方策がまとまりましたので発表します。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立てていきます。

1 仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策（資料1、2参照）

- (1) 分析結果について（学年・教科別の目標値と市平均正答率の状況）
小・中学校ともに、全ての学年・教科で目標値と同等以上となっています。
- (2) 指導改善の方策について
目標値を下回った内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。
- (3) 今後の取り組みについて
分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かします。また、小学校4教科、中学校5教科において指導改善の方策をふまえた公開授業を実施します。

2 仙台市生活・学習状況調査分析結果と指導改善の方策（資料3参照）

- (1) 分析結果について
 - ① 震災前の平成22年度と比べ、「地域との関わりについて考えて行動」し、「人の役に立ちたい」と思う児童生徒が増加しています。
 - ② 自分の将来に向けて、勉強を頑張っている児童生徒が増加しています。
 - ③ 学年が上がるにつれて、自分を肯定的に見たり、積極的にチャレンジしたりする児童生徒が減少しています。
 - ④ テレビやインターネット、無料通信アプリ（LINE、カカオトークなど）の利用時間が、児童生徒の学習時間や生活習慣に影響を与えています。
- (2) 指導改善の方策について
課題のあった内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。
- (3) 今後の取り組みについて
分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かします。また、教育委員会でも、市PTA協議会と協力し広報に努めるとともに、東北大学と共同でさらに分析を進めます。

*** 詳細は別添の資料をご覧ください**

※1 仙台市標準学力検査

児童生徒の学力の現状や課題を把握するため、小学校3年生以上を対象に、前学年で学習した内容（小学校3年生：国語、算数 小学校4年生～中学校1年生：国語、社会、算数・数学、理科 中学校2年生、3年生：国語、社会、算数・数学、理科、英語）について、毎年4月に検査しています。

※2 仙台市生活・学習状況調査

児童生徒の生活習慣や学習状況を把握・分析するため、小学校2年生以上を対象に「学習意欲」や「道徳心・挑戦・夢」などについて、標準学力検査と同時に調査しています。

※3 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭を委員とし、仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査結果の分析を行います。

平成26年度仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策（概要）

※ 目標値を下回った内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。（詳細は資料2を参照）

＜小学校＞

学年	教科	分析結果（課題）	指導改善の方策（概要）
小学校3年	国語	① 漢字（「右」）の筆順	⇒ 筆順と関連し、漢字の成り立ちや意味についても指導する。
		② 条件に合わせて構成を考えて書くこと	⇒ 作文では、限られた字数で、自分の考えを付け足したりしながら文章に表すよう指導する。
	算数	① 「かさ」（体積）における自分の考えを文章で説明する力	⇒ 水の「かさ」を量った後に、くみ出し方の説明の仕方にはパターンがあることに気付かせる。
		② 数の大小の比べ方と不等号の意味	⇒ 0～9の数字カードなどで、一枚一枚の数字を当てはめながら、視覚的に捉えさせる。
小学校4年	国語	① 主語・述語の文の構成	⇒ 「言葉の学習」だけでなく、普段の読み取りの学習、作文などでも繰り返し指導する。
		② 指定された長さや2段落構成で文章を書く	⇒ 字数や段落構成など条件を与えて文章を書かせる。
	社会	① 近所のお店で買い物するよさ	⇒ 社会見学をもとに、大型店と個人経営の店、それぞれの特徴やよさを比較させ、考えさせる。
		② 地図記号（「田」や「畑」の記号）	⇒ 自分で地図作りを行う中で地図記号を描かせる。
	算数	① 乗数や被乗数が0のときの計算	⇒ 的当てなどの具体的な場面で考えさせたり、乗法の意味をたし算と関連させて考えさせたりする。
		② 文章題を絵、図、式と関連付けてイメージする力や□（はこ）を使っての立式	⇒ 式が表している場面を簡単な絵や図で表したり、説明したりする。
理科	① 虫めがねの使い方	⇒ 対象物が動かせる場合と動かせない場合の、虫めがねのピントを合わせる方法を指導する。	
	② 電気の通り道や磁石の性質	⇒ 金属等の中で、磁石に付くものと電気を通すもの、両者を比較させながら指導する。	
小学校5年	国語	① 主語・述語・修飾語それぞれの働き	⇒ 文節単位のカードを利用したり、どの言葉を修飾しているのか考えさせる。
		② 条件に合わせて自分の考えを書くこと	⇒ 「だれに」「何を」伝えるかという、対象や目的をはっきりさせて文章を書かせる。
	社会	① 都道府県の名称と位置	⇒ クイズ形式など児童が興味を持って学習できるよう工夫しながら、継続的に知識の定着を図る。
		② 消防団についての理解	⇒ 消防団を構成している人や活動の内容、思いや願いなどを具体的にまとめさせる。
	算数	① 分度器の目盛りを読み取り方	⇒ 角度に関する具体的な操作活動をさせた上で、分度器を読み取る念頭操作に段階的に移行する。
		② 面積を求める公式の理解	⇒ 身近なものの面積を求める活動を十分にを行い、量感を捉えさせた上で、公式の意味を理解させる。
③ 立体の空間認識		⇒ 図と言葉を関連付けたりしながら、説明する活動を多く取り入れる。	
理科	① 四季の移り変わりや動物の様子	⇒ 気温などと関係付けながら、動物の観察を継続的に行い、写真や記録カードにまとめ、比較させる。	
	② 空気のあたたまり方	⇒ 金属と水のどちらかのあたたまり方に似ているか考えさせて、予想させてから実験に取り組みさせる。	
小学校6年	国語	① 漢字の成り立ち	⇒ 部首やつくりなどの漢字の成り立ちを、日ごろの学習でも意図的に繰り返し指導する。
		② 指定された長さで文を書くこと	⇒ 資料から得た情報をもとに自分の考えを整理し、字数などの条件に応じて適切に書かせる。
	社会	① 工業生産と貿易に関する資料の読み取り	⇒ 日本の輸出入について資料をもとに調べさせたり、貿易の様々な問題点について考えさせるようにする。
		② 遠洋漁業の生産量が減少した理由	⇒ 漁業別生産量のグラフや水産物輸入量の変化を表す資料などを読み取らせ、文章に表すよう指導する。
	算数	① 最大公約数	⇒ 「約数」「公約数」「最大公約数」などの用語と日常生活場面と関連させて指導する。
		② 乗数による被乗数と積の大小関係	⇒ 数直線などで視覚的に捉えるとともに、積の特徴に着目させ、気付いたことを説明させる。
理科	① 顕微鏡の使い方	⇒ 顕微鏡に多く触れることができる場の工夫を行い、実際に使いながら各部の役割や働きを理解させる。	
	② 植物の発芽と成長における実験条件	⇒ 対照実験では、一つの条件だけを変え、他の条件は変えないことを繰り返して確認し、実験させる。	

<中学校>

学年	教科	分析結果（課題）	指導改善の方策（概要）
中学校1年	国語	① 連用修飾語の被修飾語	⇒ 日常の学習の中で、主語・述語・修飾語等の関係について継続的に指導する。
		② 具体的根拠を挙げて自分の考えを書くこと	⇒ 自分の知識や経験などと結び付けながら書かせる。
	社会	① 大日本帝国憲法	⇒ 当時の政策や出来事、物とを関連付けて指導する。
		② 国会・内閣・裁判所の働き	⇒ 国会の働きについて、内閣の役割や天皇の役割、裁判所とも関連付けながら指導する。
	数学	① 単位量当たりの面積値	⇒ イメージ図や数直線図に描かせ、イメージを持った上で、立式できるようにする。
② 比と比例・反比例		⇒ 分数の約分と関連付けながら、表やグラフを活用し具体的に一つ一つの数値を確認させる。	
理科	① 植物のでんぷん生成についての実験	⇒ 実験の目的をしっかりと押さえ、「検証するための方法」「必要な条件制御」を考えさせる。	
	② 月の形・位置の変化	⇒ 観察の目的（月の位置と形）を押さえさせて、必ず同時に観察することを意識付ける。	
中学校2年	国語	① 聞き取ったり、読み取ったりした内容を理解した上で表現すること	⇒ 反応を予想しながら質問や発言をしたり、立場を明確にして話し合ったりする場面を工夫する。
		② 既習漢字を書くこと	⇒ 漢字学習の時間を確保し、漢字の成り立ちや部首の持つ意味等を関連して指導する。
	社会	① 「世界の諸地域(北アメリカ)」のヒスパニックについての理解	⇒ グラフや分布図などの資料を読み取らせたり、考察した結果を地図に着色して表現させたりする。
		② 御成敗式目の理解を基に、資料を読み取る	⇒ 資料から読み取ったり、その背景等を考察したりするような、多面的・多角的な視点を育てる。
	数学	① 「正の数・負の数」の基準との差を正負の数で表した表から平均を求めること	⇒ それぞれの和を求め平均を求める方法と基準との差を利用した求め方を両方指導する。
		② 「比例・反比例」の比例定数がどのような時に成り立つのかを考えること	⇒ 比例定数が正の場合と負の場合など具体的に比較し確認させるとともに、グラフも用いて理解させる。
理科	① 根毛の役割を文章で説明する	⇒ 実験から根毛の働きについて考えを書かせたり、話し合わせたりするなど言語活動に取り組みさせる	
	② ばねの伸びをグラフから求める	⇒ 用意したグラフに記入させるだけでなく、変化させた量や目盛りなど工夫してグラフを描かせる。	
英語	① まとまりのある英文を聞き、その内容について英語で答えること	⇒ 4技能（聞く・話す・読む・書く）を関連付けた言語活動を通して、資料を含む様々な英文を理解した上で表現する機会を増やす。	
	② 代名詞の使い方、格変化の理解	⇒ 様々な文の中で代名詞に置き換えられていく話の内容を理解、表現したりできるようにする。	
中学校3年	国語	① 文学作品の表現の特徴	⇒ 前後の文章とのつながりに着目し、表現の意味や効果を考えて読むように指導する。
		② 新聞記事の内容を正確に捉え、的確な意見を述べること	⇒ わかりやすい説明のための効果的な図表等の使い方について考える力を育成する。
	社会	① 下関条約	⇒ 大きな歴史的な流れの中で諸条約及び年代を押さえながら、地理的な位置関係を理解させる。
		② 鎖国政策についての理解を基に、資料の特色を考えて表現すること	⇒ 歴史的事象の背景や関連する事柄について、具体的な資料を活用しながら、その資料が持つ意味や役割をまとめさせる。
	数学	① 連立方程式の2元1次方程式の解	⇒ $ax+by+c=0$ の2元1次方程式では、係数 a 、 b の値の場合分けや変数 x 、 y の変域に注意させる。
		② 1次関数の問題解決方法の説明	⇒ 二つの数量関係がどのような関係か考えさせ、関数関係が成り立つことに自ら気付かせるようにする。
理科	① 「物質のなり立ち」の炭酸水素ナトリウムの分解前後の物質の性質	⇒ 炭酸水素ナトリウムが医薬品やベキングパウダーに利用され、水溶性やアルカリ性の強弱の違いに結び付ける。	
	② 日本にける冬の気圧配置と風向の関係	⇒ 冬の気圧配置の原因が、大陸と海洋のあたたまり方の違いにあることに気付かせ、温度変化と気流や気圧を関連付ける。	
英語	① 対話の内容を聞き取り、適切に応答すること	⇒ 授業の中で英語に触れる機会を増やし、様々な表現に適切に応答することができるようにする。	
	② 指定された条件のもとでの表現すること	⇒ 疑問詞を使って、与えられた条件に合う英文を作る練習や、自分がたずねたいと思うことを適切に質問する練習を普段の授業の中で取り入れていく。	

資料 2

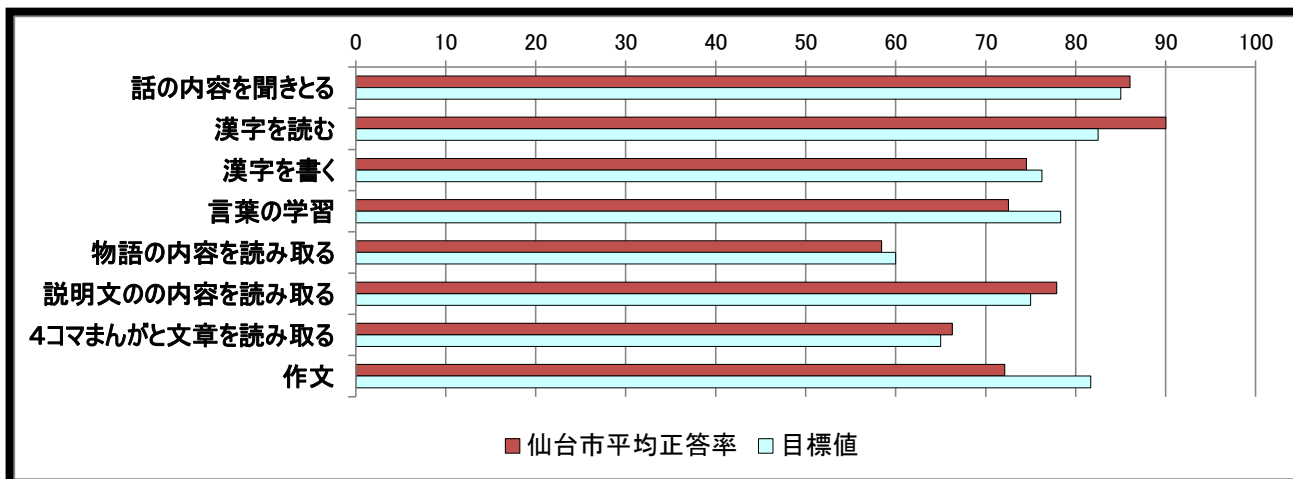
平成26年度仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策【学年・教科】

※ 以下、各学年のグラフは、内容別正答率を表したものの

【 小学校3年生 国語 】

分析結果

目標値 76.2% 市平均正答率 75.7%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

①「漢字を読む」では目標値を7.5ポイント上回っている。

①「言葉の学習」では目標値を5.8ポイント下回っており、特に「右」の筆順の正答率は目標値を13.5ポイント下回っている。漢字の筆順の定着が課題である。

②「作文」では目標値を9.6ポイント下回っており、無解答率も13.5%と高くなっている。条件に合わせて構成を考えて書く力の定着が課題である。

指導改善の方策

① 漢字の正しい書き順を身に付けさせるために

漢字の筆順を問う設問では、日頃から正しい筆順を意識して漢字を書くことが求められる。「右」と同様に、「先」の筆順を問う設問においても5.3ポイント目標値を下回っていることから、児童の筆順に対する意識が低いことが考えられる。「右」の筆順については、「左」の筆順と共に意識して指導している内容と思われるが、指導に当たっては、単に筆順のみではなく、漢字の成り立ちや意味を考えながら、筆順に意識を向ける指導が必要である。

② 自分の考えを、具体的に書くことができるようにするために

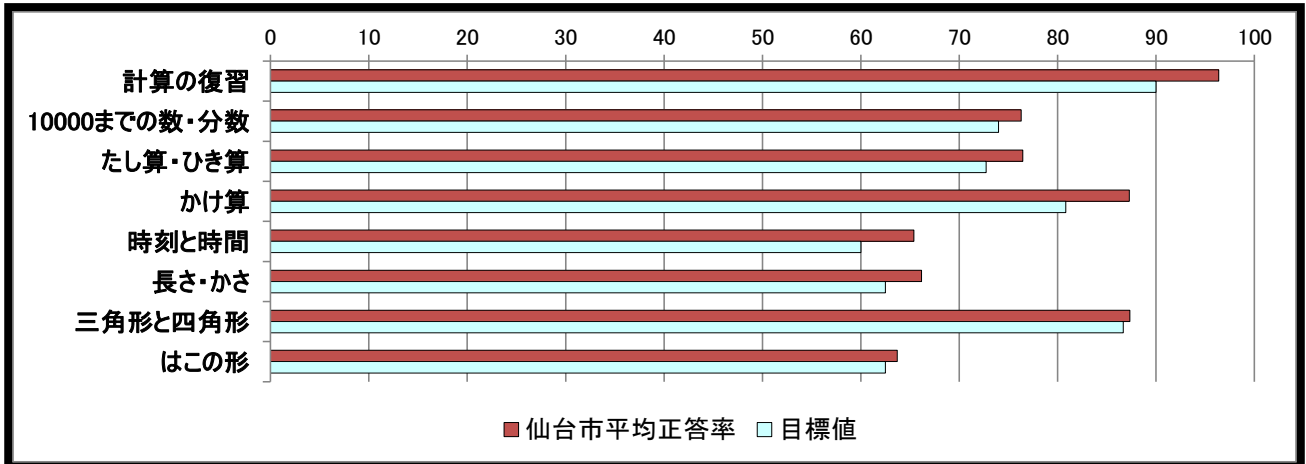
自分の考えを文章で書く設問では、図から読み取った情報を文章に表す力、また、「ほかに入っていた方が良いと思うおかず」を自分で考えて、限られた字数で書く力が求められる。「入っているもの」や「入っていた方が良いと思うおかず」を羅列しただけでは制限された字数に達しないため、入っているものの数量や、おかずについての自分の考えを詳しく述べるなど、言葉を補う必要がある。

指導に当たっては、図から読み取ったことを単語のみで伝えるのではなく、詳しく説明を加えたり、自分の考えを付け足したりしながら文章に表す指導が必要である。また、段落を付けて書くことや大事なことを限られた字数の中で書くことの指導を読み取りの学習の中に取り入れることも必要である。

【 小学校3年生 算数 】

分析結果

目標値 73.0% 市平均正答率 76.9%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「計算の復習」では目標値を6.4ポイント上回っている。
- ② 「かけ算」では目標値を6.5ポイント上回っている。
- ③ 「時刻と時間」では目標値を5.4ポイント上回っている。
- ① 「長さ・かさ」では無解答率が13.5%と高い設問があり、自分の考えを文章で説明する活動に対する苦手意識が見られる。
- ② 「10000までの数・分数」では、目標値を9.7ポイント下回っている設問があり、数の大小の比べ方や答えが複数ある問題への対応に課題が見られる。

指導改善の方策

① 自分の考えを文章で説明することができるようにするために

5dLと2dLのますを使って1L2dLをつくる方法を説明する設問においては、単位をLからdLに直すことができるか、決められた水を2種類のますでくみ出す方法を考えることができるかが問われている。1L2dLを12dLに直すまではできるが、それをどのようにくみ出すか説明できない児童が32.3%見られた。例文を基にしなから、自分の言葉で説明することを苦手としている傾向がうかがえる。

指導に当たっては、ますを使っているいろいろな入れ物に入る水のかさを量る経験をさせた後、2つのますを組み合わせて、目的の水のかさを作り出す問題に取り組ませること。ますの組み合わせ方は異なっても、くみ出し方の説明の仕方にはパターンがあることに気付かせることが大切である。

② 数の大小のくらべ方と不等号の意味を理解させるために

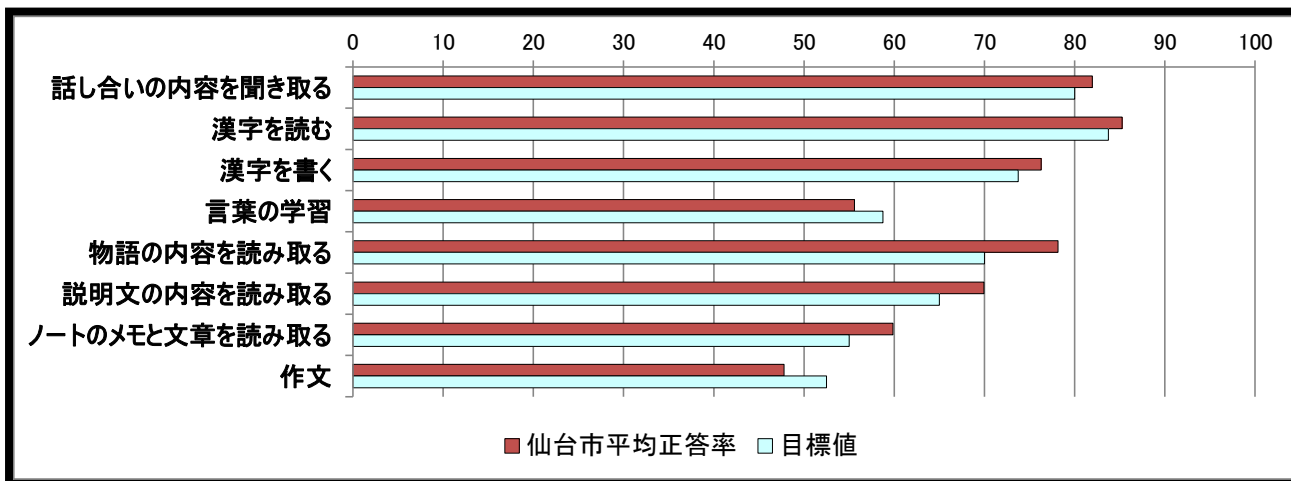
数の大小を比べる設問では、数の大小を比べる方法と不等号の意味と、空位には「0」が入ることを理解しているかが問われている。誤答例としては、0を書き忘れたり、不等号を逆に捉えたりする間違いが考えられる。また、全部の答えを書いていない間違いも予想される。

指導に当たっては、0～9の数字カードを準備し、一枚一枚の数字を当てはめながら調べさせるなど、視覚的に捉えさせることで、0の存在を意識するとともに全部の答えに気付くことができると考える。

【 小学校4年生 国語 】

分析結果

目標値 67.8% 市平均正答率 69.2%



※3年生で学習した内容について、4年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「物語の内容を読み取る」では目標値を8.2ポイント上回っている。
- ②「説明文の内容を読み取る」では目標値を約5ポイント上回っており、「読むこと」の学習における定着が見られる。
- ①「言葉の学習」では目標値を3.2ポイント下回っている。特に、文の構成（主語・述語）についての理解において、目標値を8.9ポイント下回っており、改善が必要である。
- ②「作文」では目標値を4.7ポイント下回っている。特に「指定された長さで文章を書く」「2段落構成で文章を書く」において、目標値を約7～10ポイント下回っており、改善が必要である。

指導改善の方策

① 文の構成（主語・述語）についての理解を深めるために

文の構成を捉えさせるには、文の中における主語・述語の関係に注意して、文の基本的な形を理解させたり、接続語の果たす役割について理解させたりすることが大切である。そのためには年間を通して「主語」「述語」の関係を授業の中で意識させたり、接続後を用いた短文作りをさせたりする指導が必要である。「言葉の学習」としては、授業の中で数時間の扱いなので、「言葉の学習」だけの単発の学習で終わらせるのではなく、読み取りの学習、作文など機会を捉えて繰り返し指導していくことが大切である。

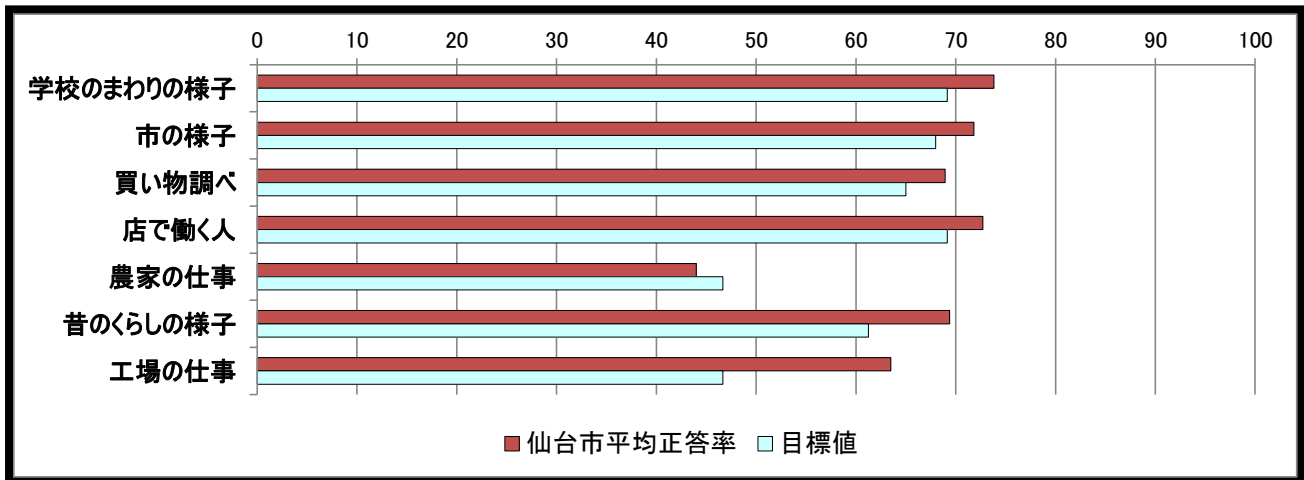
② 条件に合わせた文章を書くことができるようにするために

条件に沿って文章を書く場合、問われていることの意味を理解することが難しかったり、どのように書いたらいいのか分からなかったりすることがある。指導に当たっては、「何か書きなさい」という指導だけではなく、児童が書けない理由を分析し、その課題解決に向けた対応策を試みることが大切である。例えば、条件（字数制限、使用する語句など）を与えて文章を書かせる、メモからお願いの文章（敬体）に書き直させるなどの学習が必要である。

【 小学校4年生 社会 】

分析結果

目標値 64.8% 市平均正答率 70.4%



※3年生で学習した内容について、4年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「昔のくらしの様子」では目標値を 8.1 ポイント上回っている。
- ② 「工場の仕事」では目標値を 16.8 ポイント上回っている。
- ① 「店で働く人」の近所の肉屋で買い物する利点についての設問で、目標値を若干下回っている。
- ② 「学校のまわりの様子」の地図記号についての設問で、目標値を 11.7 ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 生産や販売についての理解を深めるために

スーパーマーケットなどの大型店と個人経営の店における消費者側からの利点を問う問題では、無解答率は低かったものの、個人経営の店の利点を正しく捉えられていない児童が多く見られた。その要因として、児童の多くが、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等で買い物をしており、個人経営の店で買い物をすることに対して、イメージできずにいることが挙げられる。

指導に当たっては、個人経営の店の良さについて、児童に捉えさせることが必要である。また、問題解決的な学習を展開させるうえで、それぞれの店の特徴や良さについて、児童に比較させ、消費者側にとっての利点を考えさせていくことが大切である。

② 地図記号に関する理解を深めるために

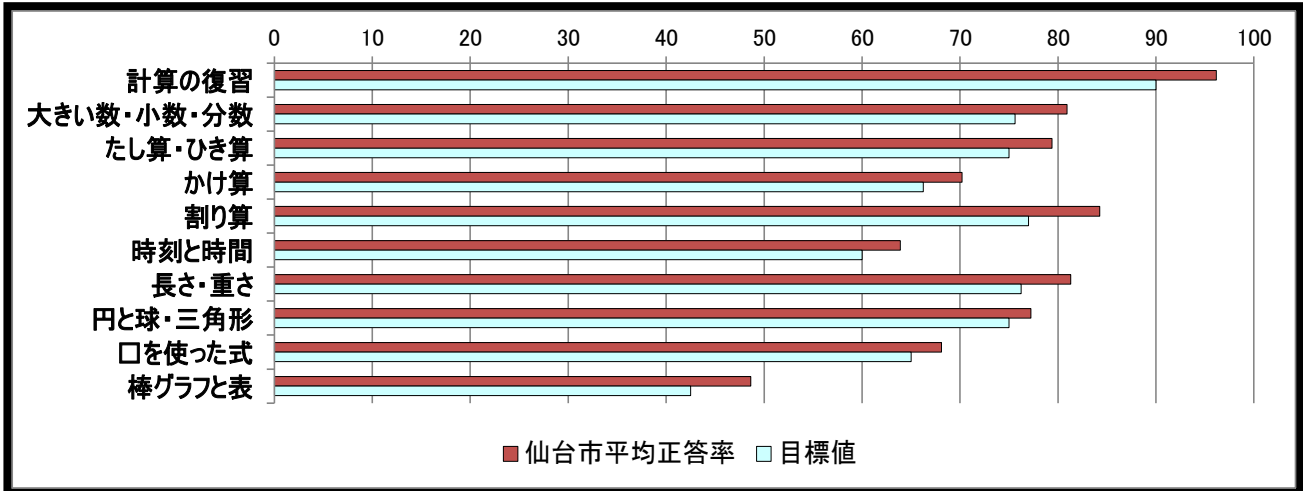
地図記号の理解に関する設問では、誤答として「田」を選ぶ児童が半数近くいることから、田と畑の記号を正確に理解できていないことが考えられる。また、今回の選択肢では、単に「畑」ではなく、「キャベツ畑」との記載になっていたため、これを「畑」の記号で表してよいものかどうか、迷った児童もいたのではないかと推察される。

指導に当たっては、繰り返し地図記号を確認しながら理解させることで定着を図るとともに、実際に、児童が自分で地図作りを行い、その中で地図記号を描く活動を設定していく必要がある。

【 小学校4年生 算数 】

分析結果

目標値 70.9% 市平均正答率 75.8%



小4算数

※3年生で学習した内容について、4年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

①～⑤「計算の復習」では目標値を6.2ポイント、「大きい数・小数・分数」は5.3ポイント、「わり算」は7.3ポイント、「長さ・重さ」は5.0ポイント、「棒グラフと表」は6.1ポイント上回っている。

①「かけ算」では目標値を若干下回った設問があり、乗数や被乗数が0のときの計算に課題がある。

②「□を使った式」のうち「□を使った乗法の式にあった文章問題を選ぶ」設問では、文章題を絵、図、式と関連付けてイメージする力や□を使って立式する力に課題がある。

指導改善の方策

① 計算する力を定着させ、更に伸ばすために

0を含む乗法についての設問では、乗数または被乗数が0のときには積が0になるということを理解しているかが問われている。

指導に当たっては、「どんな数に0をかけても答えは0になり、0にどんな数をかけても答えは0になる」ことをしっかりと理解させるため、的当てなどの具体的な場面で考えさせたり、乗法の意味を振り返り、たし算で考えさせたりすることが大切である。一方で、たし算やひき算の場合はどちらか一方が0の場合は答えが0にならないということも理解させる必要もある。わり算の学習が終わり、四則演算を全て学習するこの時期に、今回のような問題を通して振り返りをさせ、計算の技能の定着を図っていくことが必要である。

② 文章題を絵、図、式と関連付けてイメージする力や□を使って立式する力をつけるために

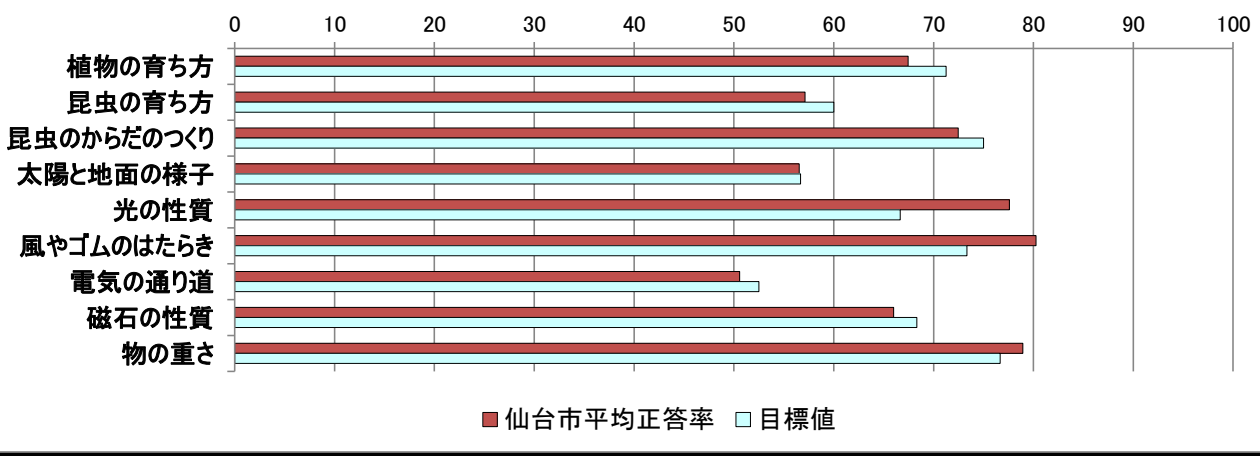
□を使った乗法の設問では、式が表している場面の意味を読み取ることができるか、未知の数量を表す記号として□を使って、数量の関係を的確に捉えることができるかが問われている。

指導に当たっては、式が表している場面を簡単な絵や図で表したり、自分の考えを友だちに説明したりする活動が大切である。すなわち、「式を読む」活動の充実である。かけ算の「1つ分×いくつ分=全部の数」を手掛かりに、式が表している場面を図などに表したり、説明したりすることで「式を読む」力を高めていくことが考えられる。また、それらの活動を通して未知の数量を□で表すことも繰り返し経験させ、□を用いた式に表す力の定着を図っていくことが必要である。

【 小学校4年生 理科 】

分析結果

目標値 67.3% 市平均正答率 67.7%



※3年生で学習した内容について、4年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「光の性質」では目標値を 10.9 ポイント上回っている。
- ②「風やゴムのはたらき」では目標値を 7.0 ポイント上回っている。
- ①「植物の育ち方」のうち「虫めがねの使い方」の設問では、目標値を 9.9 ポイント下回っている。虫めがねを身近な観察用具として年間を通して常時活用できるようにするなど、重点的な指導を行う必要があると考える。
- ②「電気の通り道」「磁石の性質」においても目標値を下回る設問がある。これは電気と磁石の性質を混同していることが原因であると考えられる。

指導改善の方策

① 虫めがねの使い方を確実に身に付けさせるために

虫めがねの使い方についての設問では、「虫めがねだけを動かして、はっきりと見えたなら止める」を選択した児童が 49.1% と多かった。拡大して見る対象物が、手に持って動かせる物なのか、動かさない物なのかによって虫めがねの操作方法が変わる。手に持って動かせる物であれば、対象物だけを動かしてピントを合わせるが、対象物が手に持って動かさない物であれば、虫めがねだけを動かしてピントを合わせる。この設問では、虫めがねの2通りの操作方法を混同したと考えられる。3年生では植物、昆虫の観察で年間を通して虫めがねを使った観察の機会が多くある。

指導に当たっては、その都度、対象物が動かせるのか、動かさないのかに着目させて虫めがねの2通りの操作方法について指導することが大切である。虫めがねの正しい使い方について教室に掲示するなどして、虫めがねを正しく使った観察の技能を育成していくことが大切である。

② 電気と磁石の性質についての理解を確実にするために

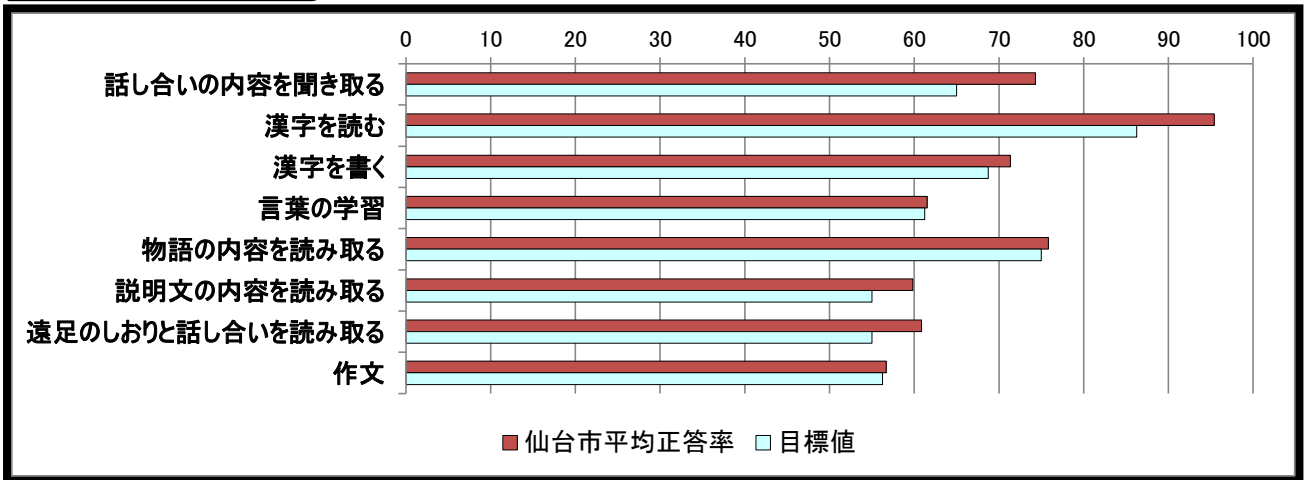
磁石についての設問では目標値を 6.4 ポイント下回っている。誤答のうち、「鉄のくぎもアルミニウムはくも、じしゃくにつく」を選択した児童が 20.7% と多かった。また、無解答も 5.0% と多いことから、電気を通す物質と、磁石が引きつける物質を混同していると考えられる。

指導に当たっては、「じしゃくにつけよう」の単元で磁石に付く物探しをするときは、前単元の「明かりをつけよう」での電気を通すもの探しの結果を想起させ、両者を比較しながら指導していく必要がある。

【 小学校5年生 国語 】

分析結果

目標値 66.4% 市平均正答率 70.3%



※4年生で学習した内容について、5年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」では目標値を9.3ポイント上回っている。
- ② 「漢字を読む」では目標値を9.1ポイント上回っている。
- ① 「言葉の学習」では、連用修飾語の被修飾語を選ぶ設問が、目標値を8.0ポイント下回っている。主語・述語・修飾語それぞれの働きを理解して、文の構成をとらえる学習に課題がある。
- ② 「作文」では、「二段落構成で文章を書くこと」について目標値を5.8ポイント下回っている。条件に合わせて自分の考えを書くことに課題がある。

指導改善の方策

① 文の構成（連用修飾語）についての理解を深めるために

連体修飾語に比べ連用修飾語の理解に課題があると思われる。また、「『池で』どうしたのか」は答えられるが、「『池で』はどの言葉を詳しく説明しているか」の問いでは答えられていない。

指導に当たっては、普段から修飾語を正しく使う意欲を高めるため、文節単位のカードを利用する活動や、文章を見つめ直す活動（①主語と述語の関係、②文末表現、③修飾と被修飾との関係など）を多く設定する。その際、「どの言葉を詳しく説明しているか」と問い、修飾語の働きを理解させることも大事である。

② 目的や必要に応じた文章を書くことができるようにするために

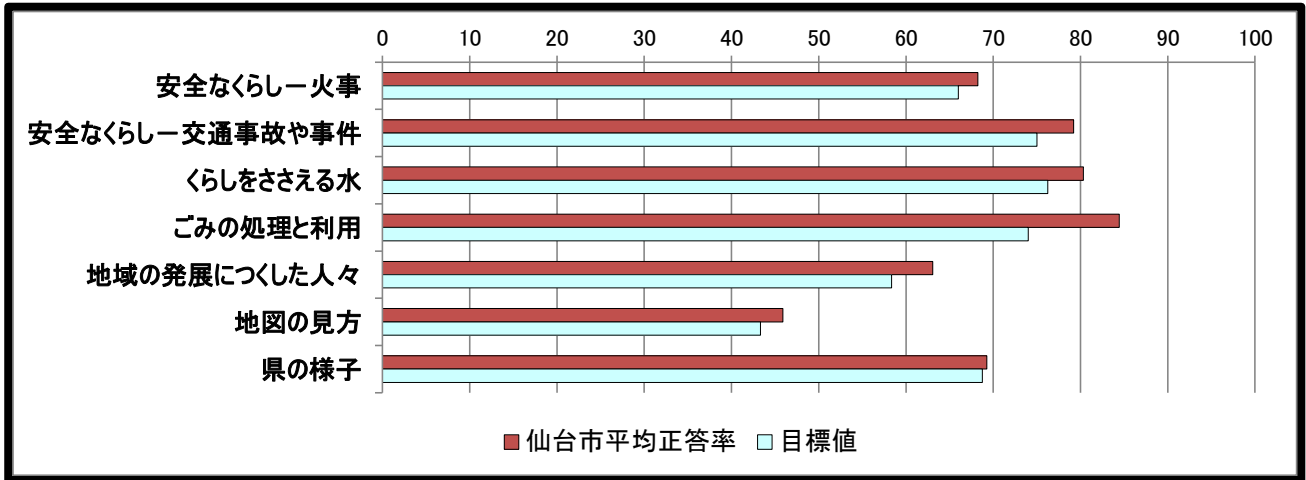
メモから必要な情報を選んで、形式に合わせて文章を書く学習が不十分であると思われる。

指導に当たっては、「だれに」伝えるかという相手意識と「何を」伝えるかという目的意識をはっきりさせて書くことの指導が重要である。メモをもとに文章に書く、呼びかけの文章を工夫するなど日常生活の中で繰り返し指導することが必要である。また、取材、構成、記述、推敲、交流の一連の過程において軽重をつけ指導することが大切である。

【 小学校5年生 社会 】

分析結果

目標値 67.6% 市平均正答率 71.9%



※4年生で学習した内容について、5年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ① 「ごみの処理と利用」では目標値を10.4ポイント上回っている。
- ② 「県の様子」の都道府県の名称と位置についての設問で、目標値を9.0ポイント下回っている。
- ③ 「安全な暮らしー火事」の消防団についての設問で、目標値を8.2ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 都道府県についての理解を深め、定着を図るために

都道府県の伝統的工芸品に関する設問では、日本地図の凡例の中から、問題の条件に該当する都府県の位置を正しく選ぶために必要な知識が問われている。この設問での正答率が目標値を下回っていることから、47都道府県の名称や位置についての知識が確実に定着していない児童の多いことが考えられる。

指導に当たっては、まず、地図帳や白地図を活用しながら、自分たちが住んでいる県の位置を確認したり、隣接している県や児童が過去に訪れたことのある県の位置を確認したりと、少しずつ範囲を広げていきたい。次に、それぞれの都道府県について紹介するカードを作成し、クイズ形式で出題するなど、児童が興味を持って学習できるように工夫しながら知識の定着を図りたい。さらに、47都道府県の名称と位置についての指導は、4年生の2学期だけで終わらせるものではなく、5年生の日本の国土に関する学習や、6年生の日本の歴史に関する学習でも機会を捉えて取り上げるなど、継続した指導を行う必要がある。

② 地域の人々のくらしを守るための取組を理解させ、定着させるために

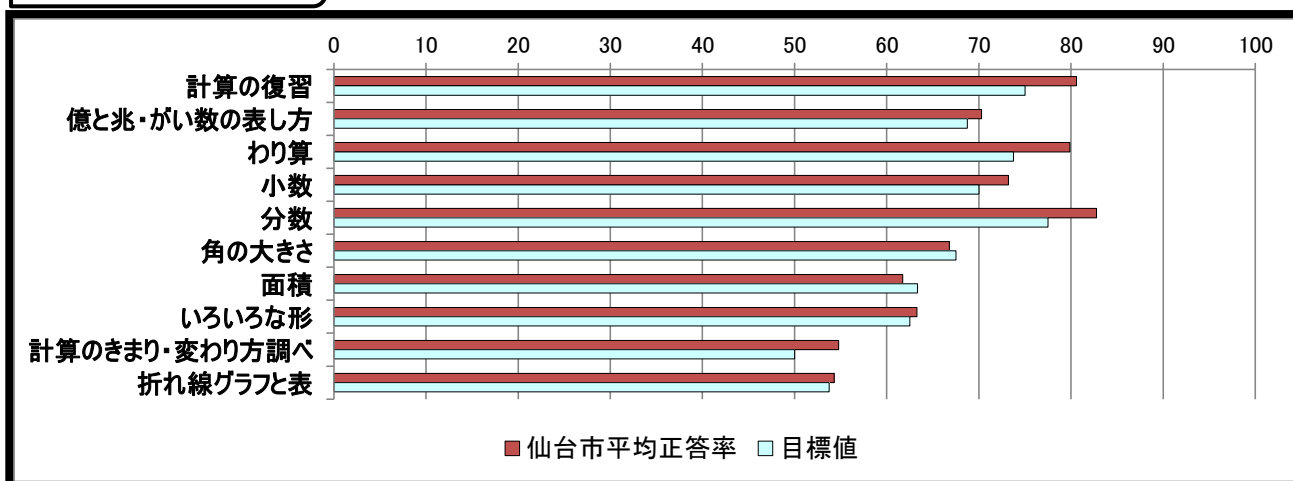
火事などの災害時に消防署と協力して活動する消防団についての設問では、誤答率が高く、その高さから考えると、安全なくらしを守るための地域の取組について、知識として確実に定着していないことが考えられる。

指導に当たっては、火事などの災害に備えるための地域の取組について、実際に消防団の人から話を聞いたり、副読本を活用したりして具体的に調べさせたい。その際、消防団について、構成している人や活動の内容、思いや願いなどを具体的にまとめさせる必要がある。

【 小学校5年生 算数 】

分析結果

目標値 66.6% 市平均正答率 69.3%



※4年生で学習した内容について、5年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

小5算数

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「計算の復習」では目標値を 5.6 ポイント上回っている。
- ②「割り算」では目標値を 6.1 ポイント上回っている。
- ③「分数」では目標値を 5.3 ポイント上回っている。
- ①「角の大きさ」のうち「分度器の目盛りを読み取る」設問では、5ポイント以上目標値を下回っていることから、目盛りの読み取り方や角の大きさの量感が十分には身に付いていないと考えられる。
- ②「面積」では目標値をやや下回っており、面積を求める公式の理解に課題が見られる。
- ③昨年度課題であった「図形」は目標値と同等となっているが、立体の空間認識について課題が残る。

指導改善の方策

① 分度器の中に示された角の大きさの目盛りを正しく読み取らせるために

分度器についての設問では、分度器を用いて角の大きさを測定することができるかが問われている。どの角度を測るのか、どの目盛りを利用して読み取るのかが課題となる。

指導に当たっては、角をつくる2つの辺の開きに着目し、児童が求める角度が90°より大きいかどうかの量感を持つることが大切である。具体的な操作活動を通して、角の大きさを測定したり、必要な大きさの角を作ったりすることができるように繰り返しの指導が必要である。

② 身近にあるものの面積を推察することができるようにするために

およその面積を求める設問では、机の面積の量感をきちんと捉えられているかが問われている。

指導に当たっては、面積の量感を捉えさせるために、身近なものの面積を調べる活動を十分に行い、その結果を検証していくことが重要である。その際、面積を求める公式の意味をしっかりと理解させ、面積を推察する根拠とすることができるような指導が大切である。

③ 図形についての理解をより深めるために

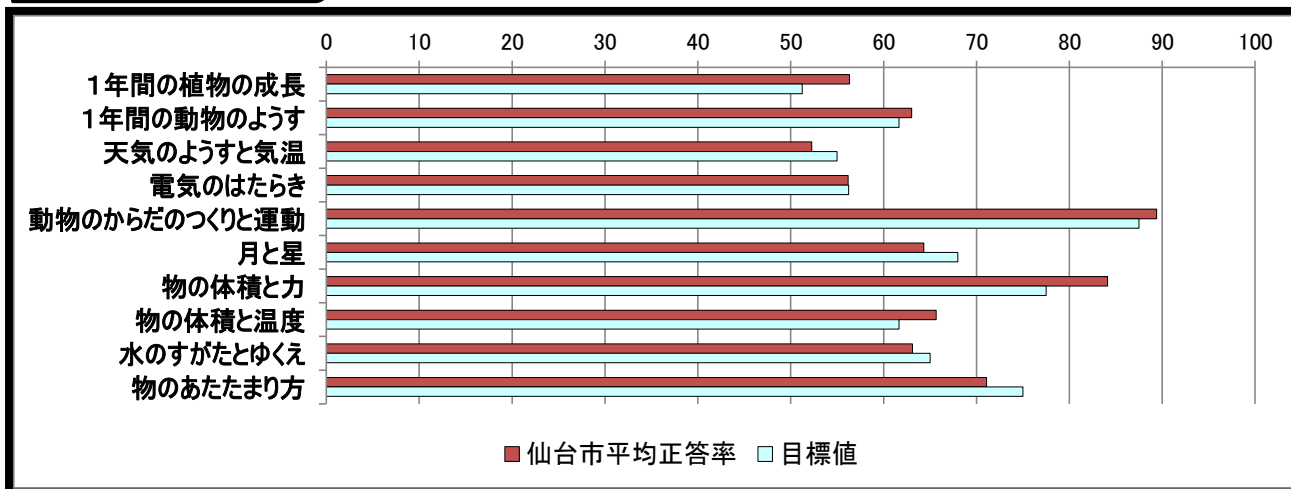
作図についての設問では、2本の直線の関係を捉え、言葉で説明できるかが問われている。

指導に当たっては、キーワードを用いたり図と言葉を関連付けたりしながら、段階を踏みながら説明する活動を、多く取り入れていく指導が大切である。

【 小学校5年生 理科 】

分析結果

目標値 64.2% 市平均正答率 64.5%



※4年生で学習した内容について、5年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「1年間の植物の成長」では目標値を5.0ポイント上回っている。
- ② 「物の体積と力」では目標値を6.6ポイント上回っている。
- ① 「1年間の動物のようす」では目標値を5.7ポイント下回っている設問があり、生き物の観察の経験不足により、四季の移り変わりと共に見られる動物の様子を理解が不十分である。
- ② 「物のあたたまり方」で目標値を9.4ポイント下回っている設問があり、水は温度によって状態が変化することをおおむね理解しているものの、水を沸騰させた時に見られる気泡が水蒸気であることや湯気が水滴であることへの理解が不十分である。さらに、水や空気は熱した部分が上方に移動することへの理解についても不十分である。

指導改善の方策

① 生き物や自然事象についての理解を深めるために

季節による動物の様子についての設問での誤答から、動物にはそれぞれ活動に適した季節があることを正しく理解できていない児童が多いと思われる。

指導に当たっては、各学校の環境に合わせ、生き物や動物の観察や飼育の指導計画を見直し、気温と関係付けさせながら継続的に観察をさせ、四季の変化を動植物の様子から実感できるように指導していく必要がある。定点観察できる環境が整っている場合には、植物のようすを写真に撮ったり記録カードにまとめたりして比較し、身近な自然の変化に気付かせることも必要である。

② 視点を明確にした観察や問題意識をもって実験ができるようにするために

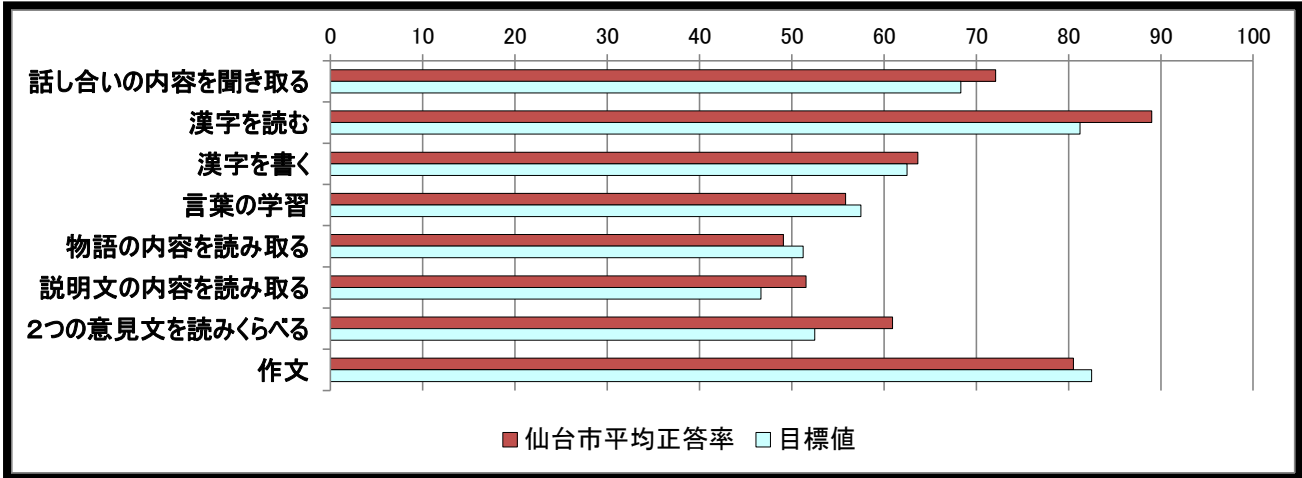
空気のあたたまり方についての設問では、誤答から、熱せられた空気が上に動くことを正しく理解できていない児童が多いと思われる。

指導に当たっては、空気をあたためた時の空気の動きに着目させる必要がある。また、空気のあたたまり方が、金属と水のどちらかのあたたまり方に似ているか考えさせて、予想を持たせてから実験に取り組ませることが必要である。視点を明確にした継続的・計画的な観察や、問題意識を十分に高めてから実験に取り組むことなどについて意識して取り組む必要がある。

【 小学校6年生 国語 】

分析結果

目標値 63.9% 市平均正答率 65.9%



※5年生で学習した内容について、6年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ①「漢字を読む」では目標値を7.7ポイント上回っている。
- ①「言葉の学習」では目標値をやや下回り、特に「漢字の成り立ち」についての理解を問う設問での正答率は31.5%にとどまっている。
- ②「作文」においても目標値を下回り、特に、指定された長さで文を書くことが課題である。

指導改善の方策

① 漢字の成り立ちの理解を深めるために

漢字の成り立ちについての理解を確かめる設問では、誤答の「二つの漢字の意味を組み合わせた」を選択している児童が半数以上である。小3年「漢字の組み立てを考えよう」での既習事項、「部首からその漢字の表す意味が何に関係あるかが分かることがある」をもとに解答したと思われる。また、5年生の単元としては2時間扱いであり、反復的な繰り返しが不十分であったと思われる。

指導に当たっては、漢字に対する意欲・関心を引き出しながら、漢字の由来等を意図的に日常の学習サイクルに組み込むとともに、繰り返しの学習や練習帳の工夫による内容の定着が必要である。

② 指定された長さで文章を書くことができるようにするために

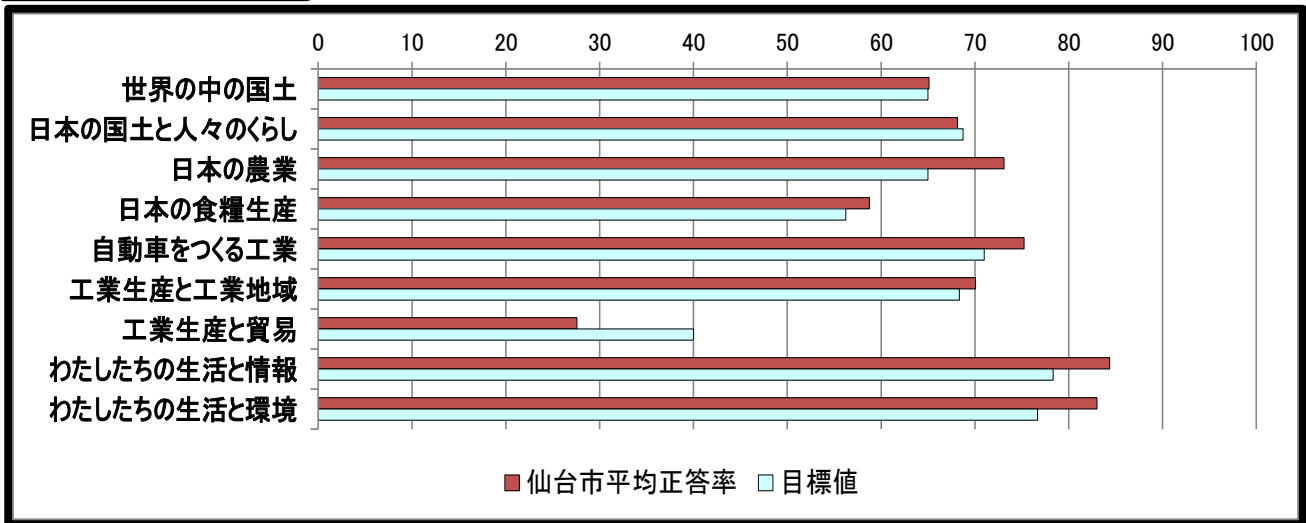
作文に関する設問では、同じ目的の二つのポスターを比較し、どちらが効果があると思うか自分の立場を明確にし、その理由をポスターの内容に触れながら指定された長さで書くことが求められている。文章を書く手順として、まず自分の考えを理由付ける根拠となる事柄をポスターから取り出し、次にその事柄に意味付けすることが必要となる。指定された字数に足りなかった児童は、そのいずれかが不十分であったものと考えられる。

指導に当たっては、提示された資料を正確に読み取らせ、伝えようとしている内容を正確に理解させることが必要である。その上で資料から得た情報をもとに自分の考えを持ち、目的に合わせて整理し、条件に応じて適切に書かせることが重要である。

【 小学校6年生 社会 】

分析結果

目標値 66.4% 市平均正答率 69.1%



※5年生で学習した内容について、6年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「日本の農業」では目標値を8.1ポイント上回っている。
- ② 「わたしたちの生活と情報」では目標値を6.1ポイント上回っている。
- ③ 「わたしたちの生活と環境」では目標値を6.3ポイント上回っている。
- ④ 「工業生産と貿易」の資料の読み取りを基に記述する設問で、目標値を10ポイント以上下回っている。
- ⑤ 「日本の食糧生産」の遠洋漁業の生産量が減少した理由について資料を基に考察し表現する設問で、目標値を9.0ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 複数の資料を適切に読み取ることができるようにするために

日本の輸出について、複数のグラフをもとに判断する設問では、輸出入を示す資料の読み取りが不十分だったための誤答が多く見られる。貿易で起こる問題についての設問においても正答率が目標値を下回っており、工業生産と貿易の学習について改善が必要である。

指導に当たっては、日本の輸出入の特色について資料を使って調べさせることや、貿易で起こる様々な問題点について考えさせていくことが大切である。

② 複数の資料を適切に読み取り、そこから分かることや考えたことを記述できるようにするために

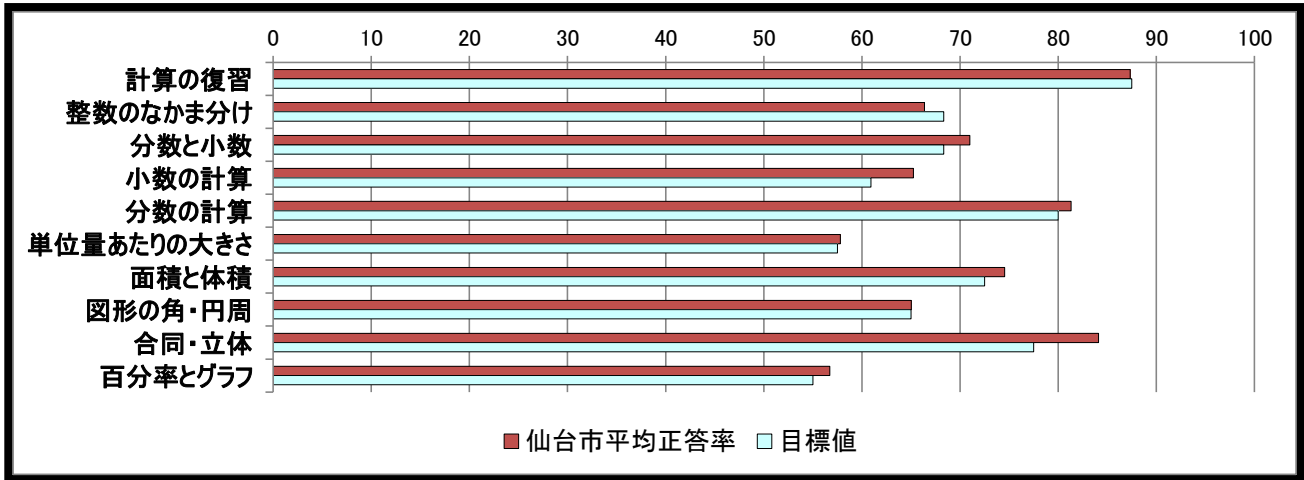
遠洋漁業の生産量が減少した理由を、複数の資料をもとに考察し、その内容を表現する設問では、適切な記述ができなかったその要因として、200海里水域と水産物の輸入との関係について理解が不十分であることや、二つの資料から読み取ったことを遠洋漁業の生産量の変化へと結び付けられていないことなどが挙げられる。

指導に当たっては、児童が漁業別の生産量の変化や日本の水産物輸入量の変化を表すグラフなどを読み取り、その変化の要因として、200海里水域の影響があることを押さえることが必要である。

【 小学校6年生 算数 】

分析結果

目標値 67.4% 市平均正答率 69.5%



※5年生で学習した内容について、6年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

①「合同・立体」では目標値を6.6ポイント上回っている。

①「整数のなかま分け」の最大公約数を求める設問では、目標値を7.6ポイント下回っており、課題が見られる。

②全体として記述式の問題や、説明のために適切な言葉を当てはめていく問題は正答率が低く、無解答率も高いことから、自分の考えを順序立てて説明することを苦手とする児童が多いと考えられる。

指導改善の方策

① 最大公約数についての理解をより深めるために

最大公約数を求める設問では、最大公約数の意味を理解し、求めることができるかが問われている。誤答からは「最大公約数」という用語の意味理解が十分でないと考えられる。

指導に当たっては、まず、同単元で学習する「倍数」「公倍数」「最小公倍数」「素数」「約数」「公約数」「最大公約数」などの用語とその意味を確実に理解させることが大切である。その際、日常生活の場面と関連させて指導し、意味をしっかりと捉えさせる。また、混同しやすい「最小公倍数」と「最大公約数」については、なぜ「最大公倍数」「最小公約数」とは言わないのかを言葉で説明させる活動を取り入れ、理解を深めることも必要である。

② 自分の考えを順序立てて説明することができるようにするために

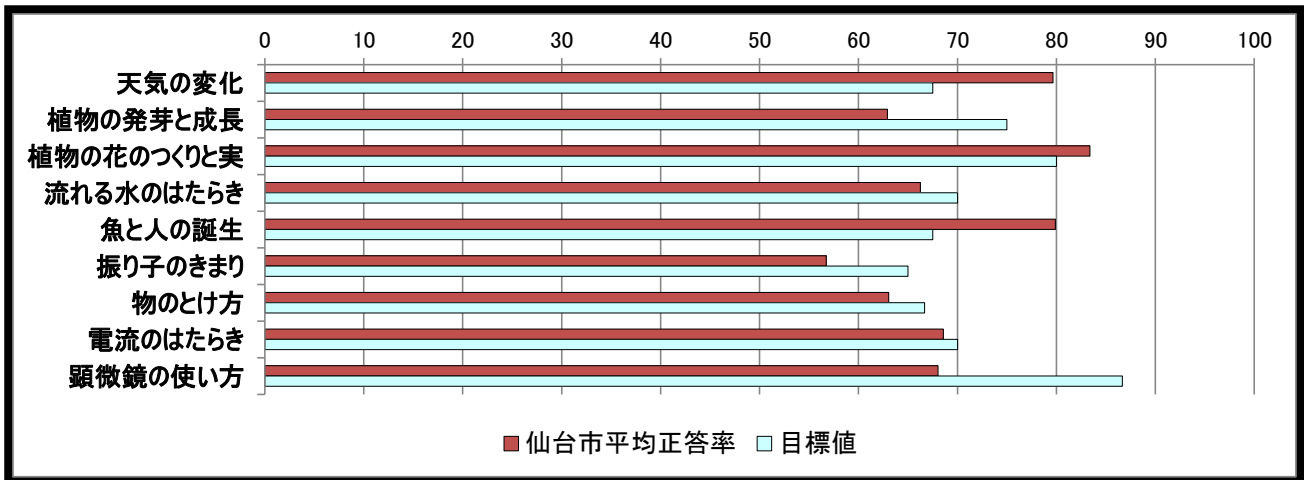
乗数と被乗数の積の大小関係についての設問では、乗数が1より小さい場合、積は被乗数より小さくなることを理解しているかが問われている。無解答率が23.4%もいることから、乗数と被乗数の関係が理解できていないだけでなく、言葉で説明することへの苦手意識も見て取れる。

指導に当たっては、単に関係を教えるのではなく、乗数が1より小さい場合の積の特徴に着目させ、気付いたことを説明させる活動を取り入れたい。数直線図をかかせ、既習の乗数が整数の場合と関連付けながら視覚的にも捉えさせることが大切である。

【 小学校6年生 理科 】

分析結果

目標値 71.4% 市平均正答率 70.2%



※5年生で学習した内容について、6年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ①「天気の変化」では目標値を12.2ポイント上回っている。
- ②「魚と人の誕生」では目標値を12.4ポイント上回っている。
- ①「顕微鏡の使い方」では目標値を30ポイント以上下回っている設問があることから、顕微鏡を身近な観察器具として年間を通して常時活用できるようにするなど、重点的に指導を行う必要がある。
- ②「植物の発芽と成長」では目標値より25ポイント以上下回っている設問がある。5年生において重点的に育む問題解決の能力は、「条件を制御して調べる」ことであり、変える条件と変えない条件を繰り返し指導していくことが必要である。

指導改善の方策

① 顕微鏡を正しく使えるようにするために

顕微鏡の使い方については、各部の役割や働きについての理解が不十分であると考えられる。顕微鏡の扱い方を覚えるのも大切であるが、各部の役割や働きについての実感を伴った理解がさらに必要である。そのためには、顕微鏡の操作方法に十分な時間をかける必要があるが、授業で顕微鏡を扱う機会が年に数回と限られていることから、教室や理科室に顕微鏡を置き、使い方を掲示して、観察の機会を多く持つような工夫も効果的である。

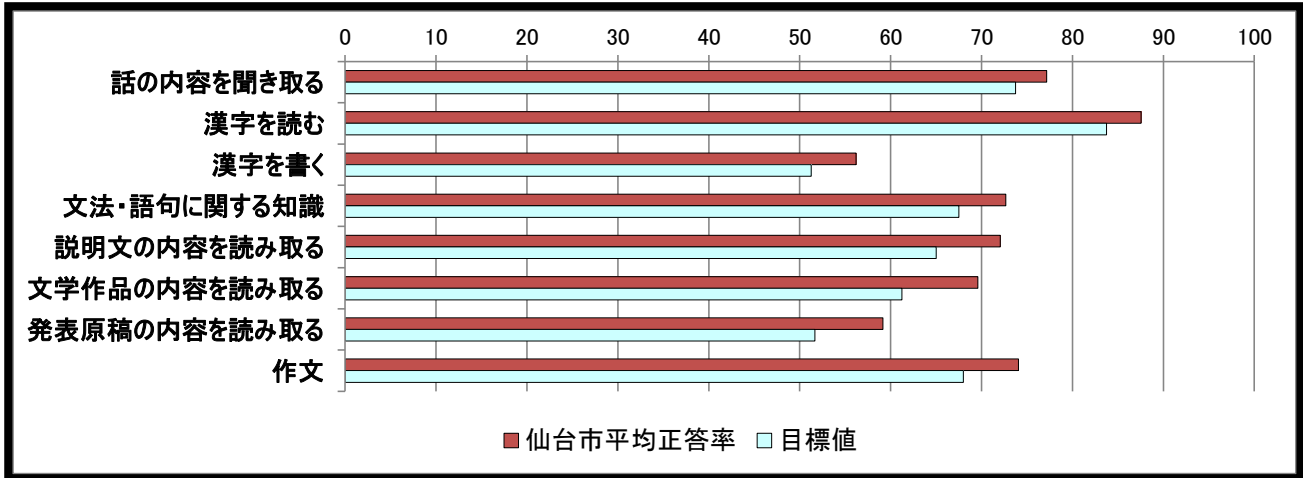
② 「条件を制御して調べる」際に大切なことを意識させるために

植物の発芽に必要な条件を調べる実験については、誤答から、植物の発芽に必要な条件として何について比較しているものなのかの理解が不十分であることや、植物の成長に必要な条件と混同したのではないかと考えられる。対照実験では、「一つのことを調べるには、他のことをすべて同じにする」ことを徹底して指導する必要がある。今回の設問で同じにしている条件は、日光が当たらないことと、脱脂綿を湿らせていること（水を与えていること）である。また、変える条件は、一方は常温であるが、もう一方は冷蔵庫内であることから、温度について調べるものであることに気付かせることができる。指導に当たっては、変える条件と変えない条件をその都度確認していくことが大切である。

【 中学校1年生 国語 】

分析結果

目標値 65.8% 市平均正答率 71.5%



※小学6年生で学習した内容について、中学1年生の4月に調査を実施
 ※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。 (○: 成果 ●: 課題)

- ① 「説明文の内容を読み取る」では目標値を7.1ポイント上回っている。
- ② 「文学作品の内容を読み取る」では目標値を8.3ポイント上回っている。
- ③ 「発表原稿の内容を読み取る」では目標値を7.5ポイント上回っている。
- ④ 「文法・語句に関する知識」の連用修飾語の被修飾語を選ぶ設問では、目標値を6.7ポイント下回っている。
- ⑤ 「作文」の本をたくさん読むことについて自分の考えを書く設問では、目標値をやや下回った。自分の考えを具体的根拠を挙げて書くことが課題である。

指導改善の方策

① 文法・語句に関する知識を身に付けさせるために

文法・語句に関する設問では、文の構成を理解し、修飾と被修飾の関係を明確につかむことが求められている。修飾語に関しては、第4学年「文の組み立てを考えよう」において、文の構成の初歩的な理解について学習している。さらに、第5学年「文の組み立てに気をつけよう」では、意味がはっきりするように読点を打ったり、言葉の位置を入れ替えたりする学習をしている。しかし、第6学年では言葉の学習として修飾語を取り立てて扱う単元はなく、「豊かな日本語の使い手になろう」において、言葉のきまりの例として取り上げられているのみである。

指導に当たっては、日常の学習の中で、主語・述語・修飾語等の関係をつかみ、文の構成について十分な理解ができるように、継続して指導する必要がある。

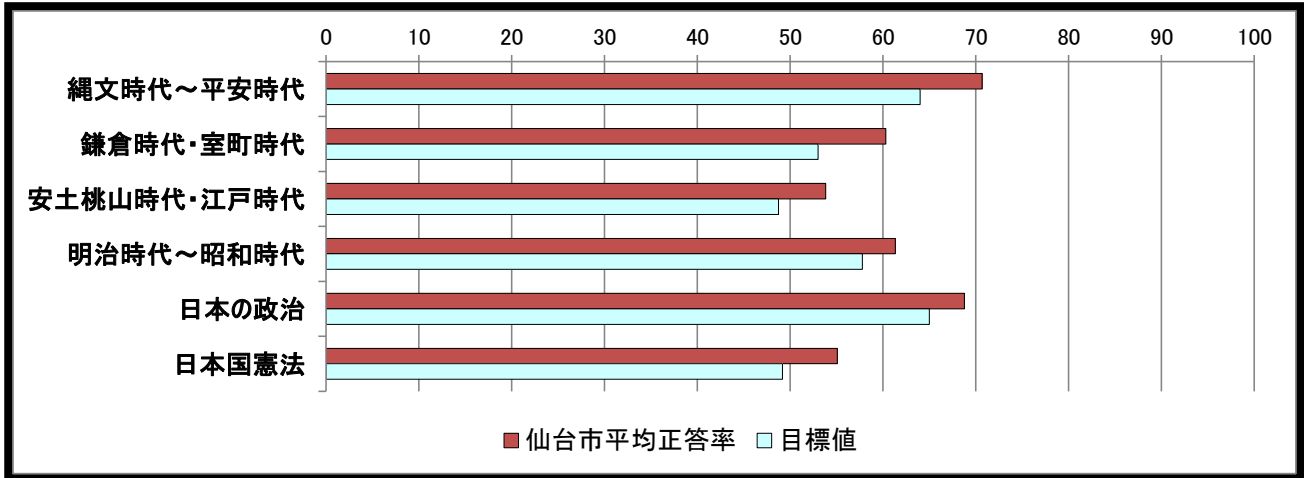
② 伝えたい事柄を明確にして書くことができるようにするために

作文についての設問では、自分の立場を選び、その立場をとった理由や自分の考えを明確に書くことが求められている。注意点「自分の立場を書く」では正答率が90.8%と高いにもかかわらず、注意点「自分の考えを書く」の正答率は25.2%と低くなっている。指導に当たっては、自分の知識や経験などと結び付けながら、賛同する意見についてどう考えるか、書く力を育成していくことが大切である。そのためには、物語文や説明文における登場人物の言動や筆者の考え方に対する自分の考えや意見を書くことを日頃の授業に取り入れて指導することも必要である。

【 中学校1年生 社会 】

分析結果

目標値 56.2% 市平均正答率 61.4%



※小学6年生で学習した内容について、中学1年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。 (○: 成果 ●: 課題)

- ①「縄文時代～平安時代」では目標値を6.7ポイント上回っている。
- ②「鎌倉時代、室町時代」では目標値を7.3ポイント上回っている。
- ③「安土桃山時代、江戸時代」では目標値を5.0ポイント上回っている。
- ④「日本国憲法」では目標値を5.9ポイント上回っている。
- ①「明治時代～昭和時代」の大日本帝国憲法についての設問で、目標値を35ポイント下回っている。
- ②「日本政治」の国会についての設問で、目標値を5.8ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 明治政府の政策に関する理解をより深めるために

大日本帝国憲法の一部の内容と明治維新後の日本の変化を表した図から、大日本帝国憲法に対する児童の知識を問う設問では、大日本帝国憲法に関する知識の定着が十分ではない児童の割合が多く、明治政府の諸政策について、さらなる理解の定着が求められる。

指導に当たっては、当時の政策や出来事、産業や文化などと、そこに関わる人物と内容を図示するなどして関連付けながら整理して指導することが大切である。

② 国会、内閣、裁判所のはたらきについて理解をより深めるために

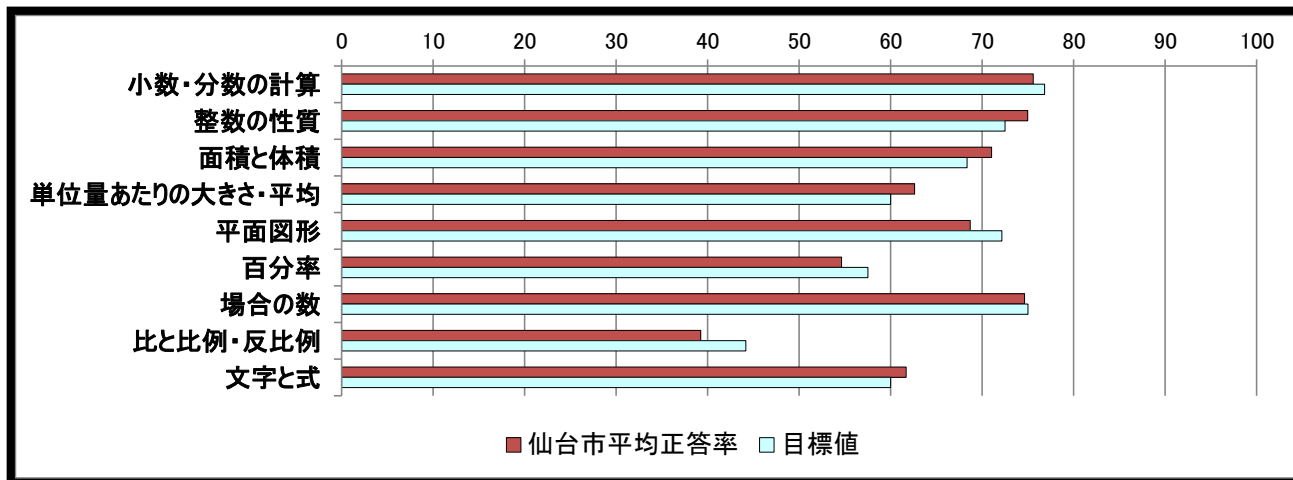
国会の働きについて問う設問では、誤答率が高いことから、児童が国会の働きと内閣や天皇の役割とを正しく理解できていないことが考えられる。

指導に当たっては、国会の働きについては、内閣の役割や天皇の役割とも関連付けながら理解を図り知識を定着させていく必要がある。さらに、国会・内閣・裁判所、そして天皇と、それぞれが果たすべき役割とそれぞれのつながりを整理し簡潔にまとめていくことが重要である。

【 中学校 1 年生 数学 】

分析結果

目標値 66.6% 市平均正答率 65.3%



※小学6年生で学習した内容について、中学1年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「単位量あたりの大きさ・平均」では、単位の違う速さと時間から道のりの求め方を説明する設問で目標値を11.8ポイント上回っている。
- ① 「単位量あたりの大きさ・平均」では、単位量当たりの面積を求める式を選ぶ設問で目標値を10.8ポイント下回っている。
- ② 「比と比例・反比例」では、目標値を5ポイント近く下回るとともに、無解答率も高くなっている。

指導改善の方策

① 単なる計算処理で終わらせず、日常生活と関連付けて考えさせるために

単位量当たりの値についての設問では、「単位量当たりの大きさ」の意味を理解しているかが問われている。

指導に当たっては、単に、「生徒数÷面積」の計算処理だけで終わらせることなく、数直線図にかかせたり、絵にかかせたりしながら、根拠を明確にして立式できるようにすることが大切である。また、自分の住む市町村の人口密度を調べるなど、生活と関連付けることも重視する必要がある。

② 比例や反比例の関係についての理解を確かなものとするために

等しい比を選ぶ設問では、比の性質や比の値を用いて、比を簡単にし、等しい比を見つけることができるかが問われている。

指導に当たっては、「比を簡単にする」ことを既習事項である分数の約分と関連付けながら、比の性質についてしっかりと理解させることが大切である。

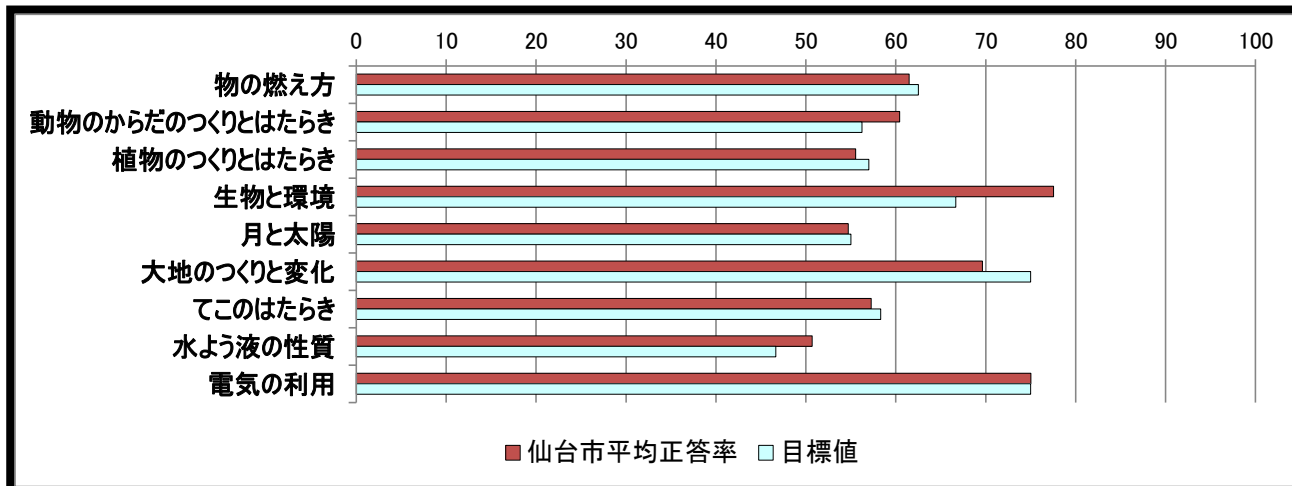
反比例についての設問では、反比例の性質を用いて、対応する数値を求めることができるかが問われている。反比例の性質としては、「2つの数量の一方の数量がm倍になれば、対応する他方の数量は1/m倍になること」と「対応する数量の値の積がどこも一定であること」が挙げられる。誤答からは、これらの性質が理解できていないことや、理解できていても活用の仕方が分からないことが考えられる。

指導に当たっては、表やグラフを活用し、具体的に一つ一つの数値を確認させながら指導する。そして、上記の二つの性質を児童自らが見いだすことができるような展開を工夫していく。その際、比例と反比例を比較することで理解が深まるので、違いに気を付けさせながら学習を進める必要がある。

【 中学校 1 年生 理科 】

分析結果

目標値 60.8% 市平均正答率 61.7%



※小学6年生で学習した内容について、中学1年生の4月に調査を実施
 ※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「生物と環境」では目標値を 10.8 ポイント上回っている。
- ① 「植物のつくりとはたらき」では目標値を 7.1 ポイント下回っている設問があり、植物のでんぷん生成についての実験における推論・考察に課題がある。
- ② 「月と太陽」では目標値を 10.7 ポイント下回っている設問があり、月の形・位置の変化を推論・考察する活動に課題が見られる。

指導改善の方策

① 実験の結果から推論，考察することができるようにするために

植物の葉に日光があたるとでんぷんができるかどうかを調べる実験についての設問では、「おいをはずして日光に4～5時間当てた葉をつみ取り，湯で煮たあと，ヨウ素液につける。」を選んだ児童が36.0%と多く見られた。このことから，日光が葉に当たるとでんぷんがつくられることを確かめるための実験方法についての理解が不十分であることが考えられる。また，実験開始時の朝に，葉にでんぷんが存在していないことを確認する必要があるという押さえがなされていないことも原因の一つと思われる。

指導に当たっては，「実験の目的」をしっかりと押さえ，「検証するための方法」「必要な条件制御」を児童らに考えさせ，しっかりと理解させた上で実験を行うことが重要である。

② 観察の結果から推論，考察することができるようにするために

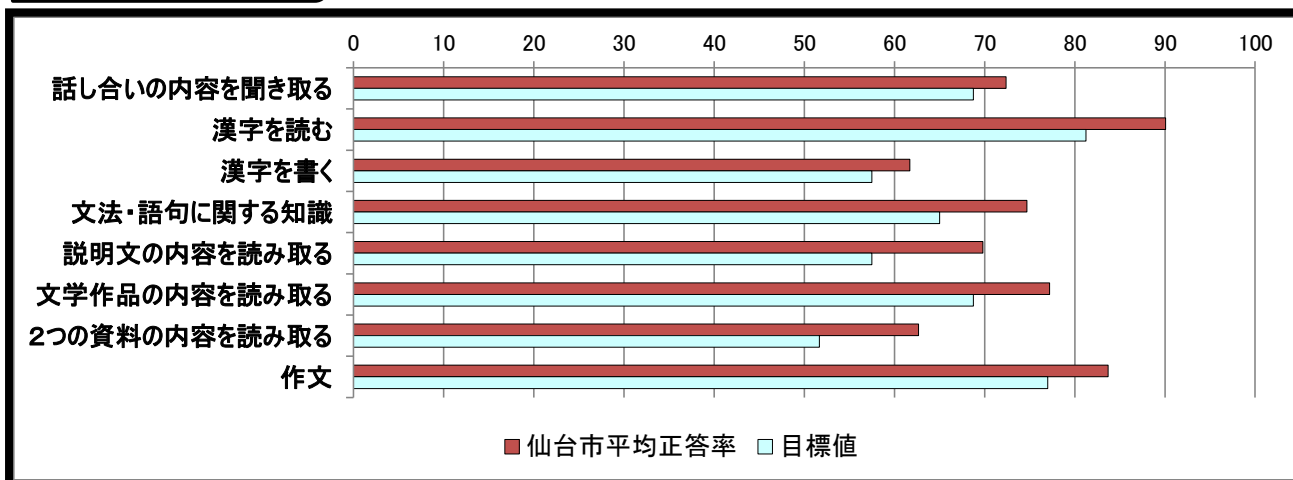
4日後の同時刻に，月がどのように見えるか判断する設問では，時間の経過とともに三日月が半月へと形が変わって見えることは認識しているものの，数日後の同時刻における「見える位置」が変化するという認識がないことによる誤答が多く見られた。月の観察の機会が少ないことや，観察した結果から「月の動き」や「形の変化」の正しい認識へとうまくつなげられていないためと思われる。

指導に当たっては，何を調べるための観察（月の位置と形）であるのかを押さえて，必ず同時刻に観察することを意識付ける必要がある。また，家庭での観察となるため，観察の精度を上げるための指導や事前指導をしっかりと行うことも重要である。

【 中学校2年生 国語 】

分析結果

目標値 66.7% 市平均正答率 74.7%



※1年生で学習した内容について、2年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。 (○：成果 ●：課題)

①「2つの資料の内容を読み取る」では目標値を10ポイント以上上回っている。

②「話し合いの内容を聞き取る」は目標値を上回っているが、聞き取った話の内容を踏まえて、答えの文に対応した質問を考える設問では、正答率が目標値とほぼ同程度であった。「2つの資料の内容を読み取る」では、複数の資料を関連付けて読み取り、条件に沿って文章を適切に書き直す設問の正答率が、44.4%にとどまっている。このことから、聞き取ったり、読み取ったりした内容を理解した上で表現することが課題である。

③「漢字を読む」は約9割の正答率であったが、「漢字を書く」では正答率が目標値を下回るものや、無解答率が高いものがあり、既習漢字を書く力の定着を図ることが今後も求められる。

指導改善の方策

① 聞き取ったり、読み取ったりした内容を理解して表現する力をつけるために

聞き取りテストでは、意見交換において話し手の内容を正確に聞き取り、話し合いの方向をとらえて発言する力が問われている。誤答の内容から、話し合いの目的や、相手の反応を踏まえて質問をしたり応じたりすることに課題がある。

指導に当たっては、話し手の主張を簡潔にメモしながら聞き、相手の反応を予想しながら質問や発言をしたり、自分の立場を明確にして話し合ったりする場面を多く設定することが必要である。

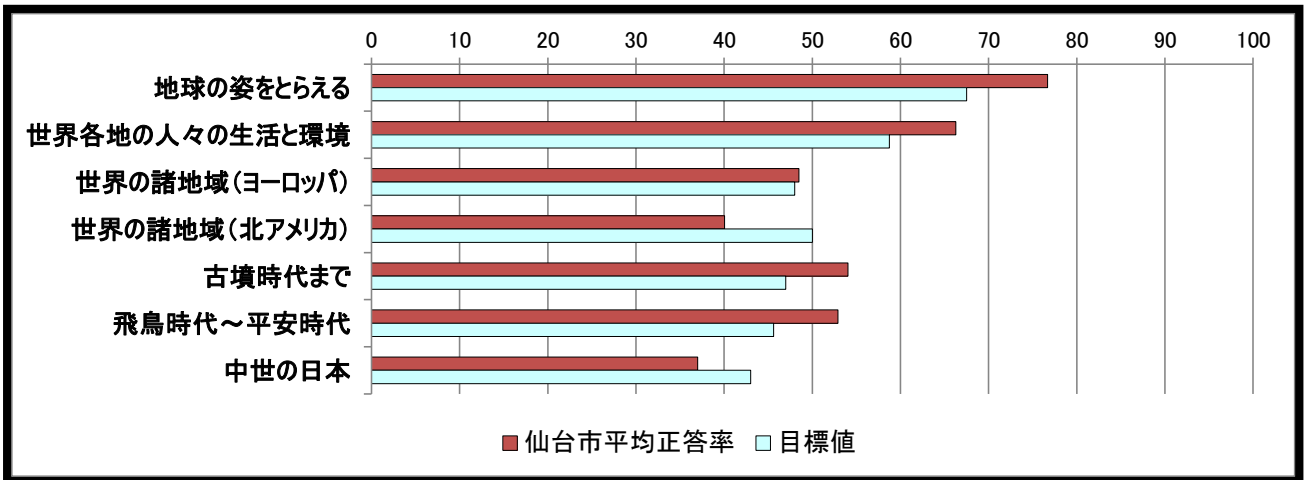
② 漢字を正しく書けるようにするために

既習漢字の書きについての設問では、無解答率が高いことから、既習漢字を定着させるための継続した指導が必要である。家庭学習を促す取組のほか、指導に当たっては、授業時間内に漢字学習の時間を保障し、漢字の成り立ちや部首のもつ意味等を取り上げていくことが大切である。例えば、手本となる漢字を常に横に見て練習したり、指書きや空書きをさせたりフラッシュカードを使ったりするなどの工夫が考えられる。また、板書事項に留意し、習得した漢字を文や文章の中で適切に使う機会を増やすことが重要である。

【 中学校2年生 社会 】

分析結果

目標値 50.3% 市平均正答率 53.3%



※1年生で学習した内容について、2年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①～④「地球の姿をとらえる」では目標値を9.2ポイント、「世界各地の人々の生活と環境」は7.5ポイント、「古墳時代まで」は7.1ポイント、「飛鳥時代～平安時代」は7.3ポイント上回っている。
- ①「世界の諸地域(北アメリカ)」のヒスパニックについての理解を基に、図を読み取る設問では目標値を31.4ポイント下回っている。
- ②「中世の日本」の御成敗式目についての理解を基に、資料を読み取る設問では目標値を27.9ポイント下回っている。

指導改善の方策

① グラフや分布図などの資料を丁寧に読み取り、考察した結果を表現する力をつけるために

アメリカ合衆国の移民系の人々についての正しい説明を選ぶ設問では、大都市を抱える州北東部などで比率が高いことなどに着眼するといった、分布図を丁寧に読み取る力に課題が見られる。併せて、ヒスパニックがメキシコ系の移民であり、単純労働に従事する人が多いという理解についても課題があり、総じて低い正答率となったと考えられる。

指導に当たっては、「アメリカ合衆国ではヒスパニックが増えてきている」など単純な事実を記憶させるのではなく、学習課題をもとにグラフや分布図などの資料を丁寧に読み取らせたり、資料を読み取って考察した結果を地図に着色して表現させたりするなどして、理解を深めさせることが大切である。

② 多面的・多角的な視点から考察する力をつけるために

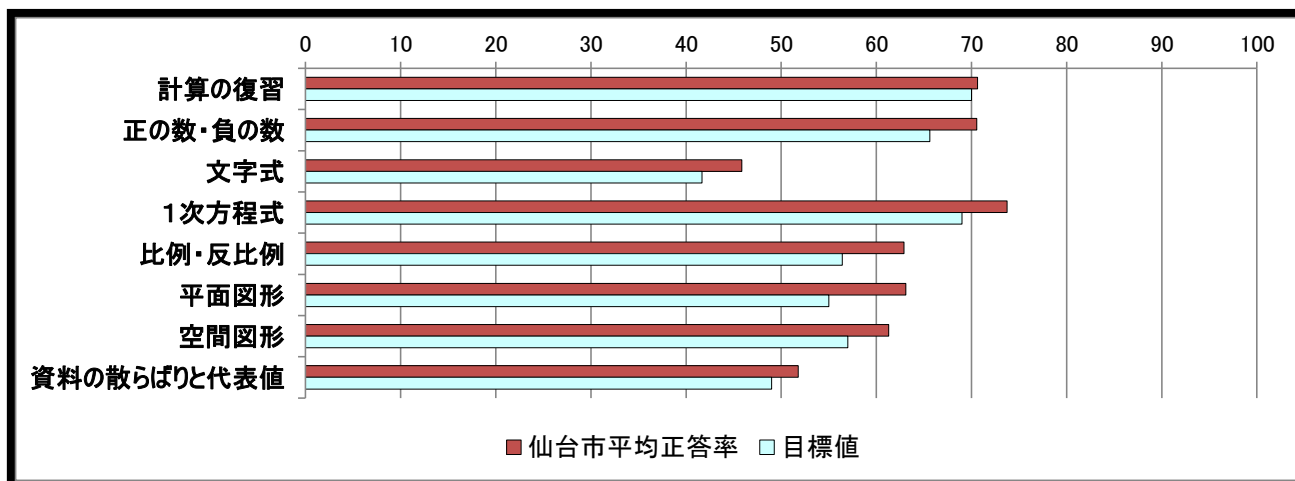
この設問では、裁判にかかわる法令である御成敗式目についての理解をもとに、資料からその内容を読み取る力が求められている。誤答例では、武家諸法度と2.6%が解答した以外は、その他の解答や無解答率が高かった。資料中に「1232年」「貞永元年」「北条泰時」というキーワードがあるにもかかわらず、22.1%という低い正答率であったことから、誤答の原因は次の2点と考えられる。一つ目は、「法令」という言葉の示す内容と御成敗式目という答えが繋がらなかったこと、二つ目は、この資料そのものが教科書に記載されている内容と異なっていること、である。

今後の指導に当たっては、教科書の資料名や用語等を一問一答形式で教えるのではなく、教科書の記述をもとに、他の資料から読み取ったり、資料の持つ特徴等やその資料が出された背景等を考察したりするような、多面的・多角的な視点を育てるための指導を工夫することが必要である。

【 中学校 2 年生 数学 】

分析結果

目標値 58.6% 市平均正答率 63.3%



※1年生で学習した内容について、2年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ①「平面図形」では、目標値を8.1ポイント上回っている。
- ①「正の数・負の数」では、基準との差を正負の数で表した表から平均を求める設問で、目標値を6.0ポイント下回っている。
- ②「比例・反比例」では、比例定数がどのような時に成り立つのかを考える設問で、6.7ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 「仮の平均」をもとにして平均を求めることができるようにするために

この設問は、基準との差を正負の数で表した表から平均を求めることをねらいとしている。

指導に当たっては、それぞれの気温の和を求めて、その平均を求める方法の他に、基準との差を利用した方法があることを合わせて指導することが必要である。

② 比例の関係についての理解をより深めるために

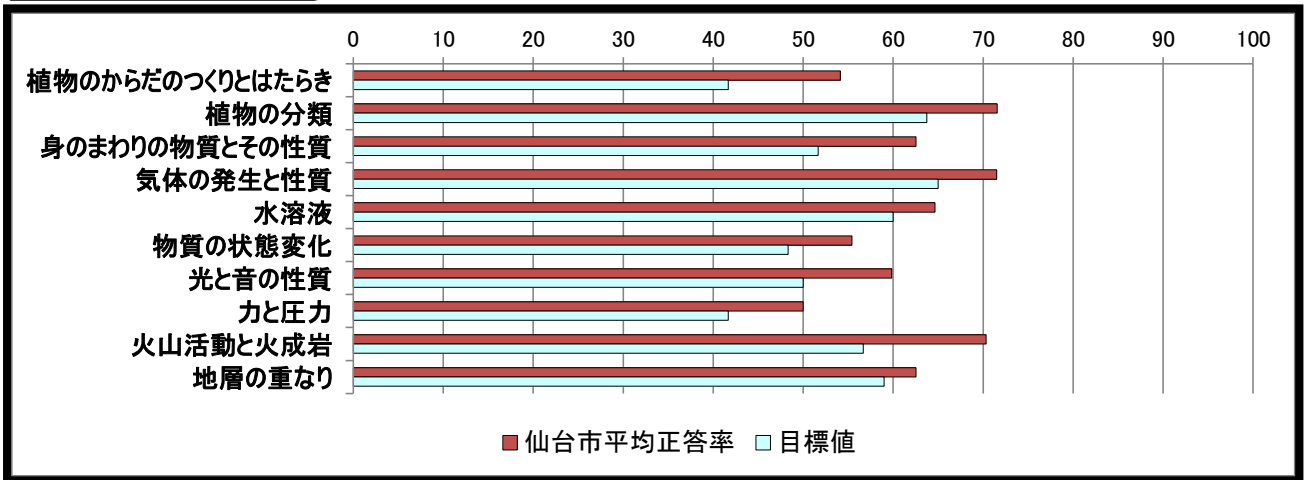
この設問は、比例定数が正の場合だけでなく負の場合も比例の関係が成り立つことを確認することをねらいとしている。

指導に当たっては、具体的な式と表を用いて x の値が2倍、3倍、4倍、…になると、 y の値も2倍、3倍、4倍、…になることを、比例定数が正の場合と負の場合を比較する形で確認すること、2倍、3倍、4倍、…だけでなく、 $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍、1.5倍など、いろいろな場合において確認することが必要である。さらに、グラフを学習した後は、グラフを用いて理解させることも重要である。また、正の数や負の数という表現だけでなく、 $a > 0$ や $a < 0$ という表現も用いていくことが大切である。

【 中学校2年生 理科 】

分析結果

目標値 53.7% 市平均正答率 62.1%



※1年生で学習した内容について、2年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①～⑧「植物のからだのつくりとはたらき」では目標値を 12.4 ポイント、「植物の分類」では目標値を 7.8 ポイント、「身のまわりの物質とその性質」では目標値を 10.8 ポイント、「気体の発生と性質」では目標値を 6.5 ポイント、「物質の状態変化」では目標値を 7.1 ポイント、「光と音の性質」では目標値を 9.9 ポイント、「力と圧力」では目標値を 8.3 ポイント、「火山活動と火成岩」では目標値を 13.6 ポイント上回っている。
- ①「植物のからだのつくりとはたらき」の根毛の役割を説明する設問では、無解答率が高くなっており、その働きや仕組みについて理解が課題である。
- ②「力と圧力」のばねの伸びをグラフから求める設問では、無解答率が高くなっており、根拠を基に思考する(思考し合う)授業づくりが必要である。

指導改善の方策

① 用語の暗記だけでなく、その仕組みや働きを説明できるようにするために

ハツカダイコンの根毛の特徴について説明する設問で無解答率が高かった要因として、根毛という用語は分かっている、その働きや仕組みまでは理解できていないことが考えられる。また、根毛の働きの仕組みが分かっている、そのことを文章で表現することができなかったとも考えられる。

根毛の優位性を説明できるようにするために、モデルを用いた実験を工夫し根毛の働きを考えさせる必要がある。予想・仮説を実験結果から検証する中では、「書く活動」やペア・グループでの「話し合い活動」を適切に位置付けて、表現力を身に付けさせたりしていく必要がある。

② 実験の結果をグラフなどに適切に整理し、活用することができるようにするために

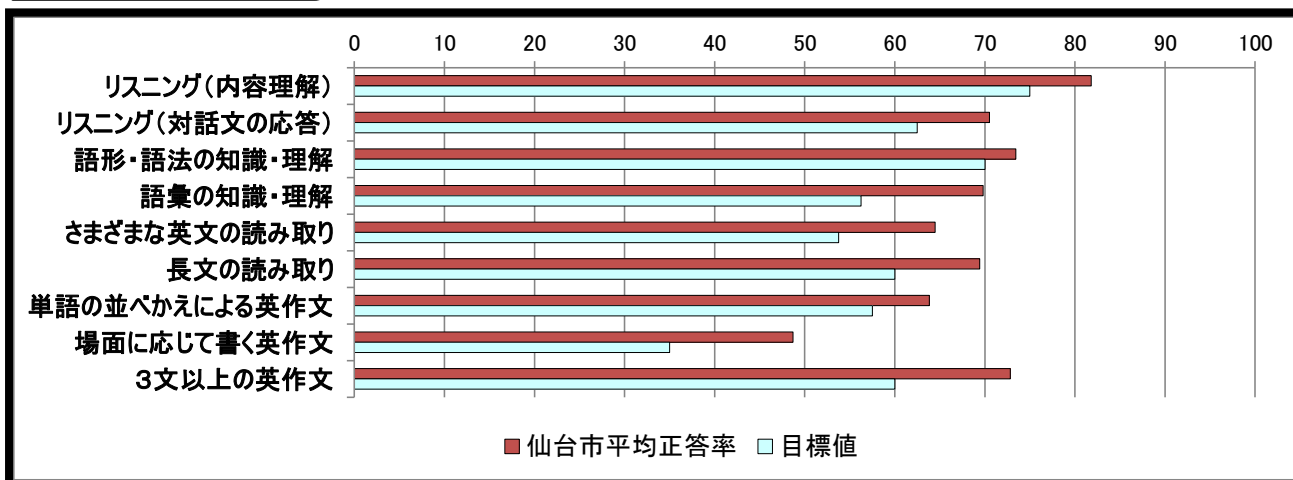
ばねの伸びをグラフから求める設問で無解答率が高いということから、力の大きさとばねの伸びの実験結果において、ただ単に原点を通り直線的なグラフができれば比例関係にあるという捉えだけに留まっていると考えられる。

指導に当たっては、用意されたグラフに測定値を記入していくだけの学習ではなく、横軸に「変化した量」・縦軸に「変化した量」をとって測定値の最大値を考えて目盛りを入れるなど、グラフの書き方を基礎技能として学習していくことが必要である。

【 中学校2年生 英語 】

分析結果

目標値 61.1% 市平均正答率 70.1%



※1年生で学習した内容について、2年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

①～⑧「リスニング(内容理解)」では目標値を6.8ポイント、「リスニング(対話文の応答)」は8.0ポイント、「語彙の知識・理解」は13.5ポイント、「さまざまな英文の読み取り」は10.7ポイント、「長文の読み取り」は9.4ポイント、「単語の並びかえによる英作文」は6.3ポイント、「場面に応じて書く英作文」は13.7ポイント、「3文以上の英作文」は12.8ポイント上回っている。

①「聞くこと」は、全体的に良好だが、まとまりのある英文を聞き、その内容について英語で答えることに課題が見られる。

②「語形・語法の知識・理解」の代名詞の設問では、目標値を若干ではあるが下回っている。代名詞の使い方、格変化の理解に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができるようにするために

資料を見ながら対話を聞き取り、質問に対する答えを英語で書く設問では、質問“How many classes do we have today?”の内容が理解できないままに英文を書いていることが考えられる。これは、

- ① 聞き取りの設問の中で英文を書いて答える形式に慣れていない。
- ② 英語を聞きながら同時に資料(この設問の場合「時間割」)を分析する経験が少ない。
- ③ How many classes? のような語形変化に伴って聞き取りづらくなる複数形が理解できていない。
- ④ 主語が we の疑問文とその答え方に慣れていない。

などが理由であると考えられる。

指導に当たっては、4技能(聞く・話す・読む・書く)を関連付けた言語活動を通して、資料を含む様々な英文を理解しながら、自分の持つ英語力で表現する機会を増やし、総合的な英語力を身に付けさせる必要がある。また、その指導の際、語形変化後(複数形など)の語を含んだ英文、we が主語の疑問文やその答え方を取り入れ、英語独特の発音や表現に慣れさせる必要がある。

② 代名詞を理解し、適切に使いこなせるようにするために

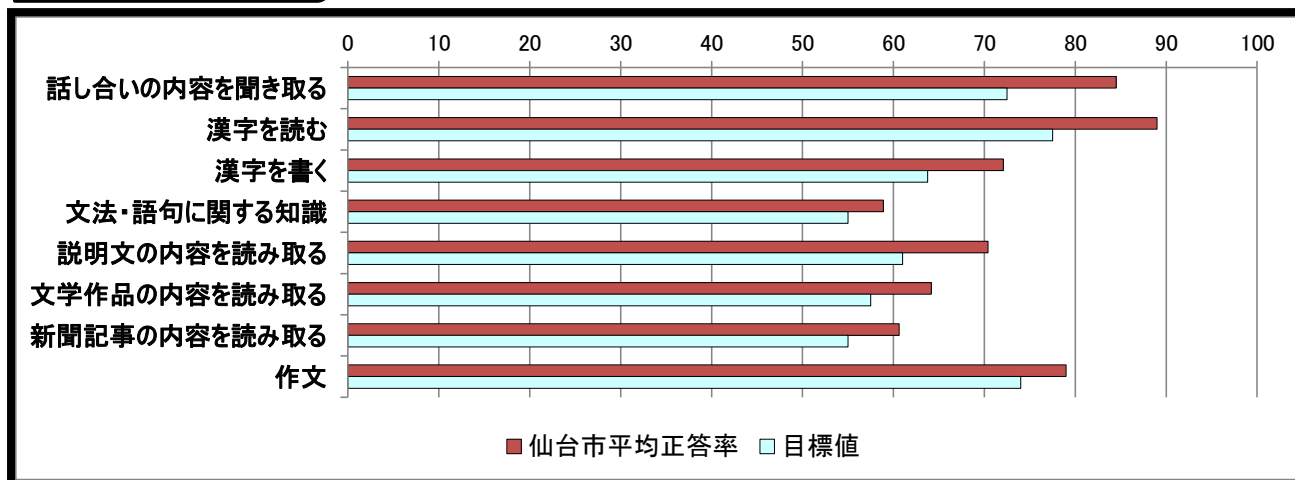
代名詞で言い換える設問では、代名詞の格変化を単数・複数の両方を覚えて使いこなさなければならず、定着するまでに時間がかかると考えられる。

指導に当たっては、①代名詞の変化を徹底的に覚えさせることと、②文構造を理解させることが必要であると考えられる。文構造を理解し、代名詞変化の知識がある上で、③一度話題に出た人物・物が、様々な文の中で代名詞に置き換えられて進んでいく話の内容を理解したり、表現したりできるように指導していくことが必要である。

【 中学校3年生 国語 】

分析結果

目標値 65.0% 市平均正答率 72.8%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「話し合いの内容を聞き取る」では目標値を12.0ポイント上回っている。
- ②「漢字を読む」では目標値を11.5ポイント上回っている。
- ③「漢字を書く」では目標値を8.3ポイント上回っている。
- ④「説明文の内容を読み取る」では目標値を9.4ポイント上回っている。
- ⑤「文学作品の内容を読み取る」では目標値を6.7ポイント上回っている。
- ⑥「新聞記事の内容を読み取る」では目標値を5.6ポイント上回っている。
- ⑦「作文」では目標値を5.0ポイント上回っている。
- ①「文学作品の内容を読み取る」内容のうち「表現の特徴をとらえることができる」力を見る設問では、目標値をわずか0.9ポイント上回るにとどまっている。描写の工夫や効果について考える学習が不足していることが原因として考えられる。
- ②「新聞記事の内容を読み取る」内容のうち「文章の内容を正確にとらえ、的確な意見を述べることができる」力を見る設問では、目標値を2.2ポイント上回ったものの、無解答率が15.6%と高く、自分の考えを表現することが課題である。

指導改善の方策

① 表現の特徴をとらえて読むことができるようにするために

文章中の描写について正しい説明を選ぶ設問では「表現の特徴をとらえる」力が問われている。ここでは、誤答が複数に分かれ、正誤を判断する根拠を読み取れていないことが分かる。

指導に当たっては、前後の文章とのつながりに着目し、登場人物の心情を捉えるために、表現の意味や効果を考えて読むように指導する必要がある。

② 文章の内容を正確にとらえ、的確に意見を述べるようにするために

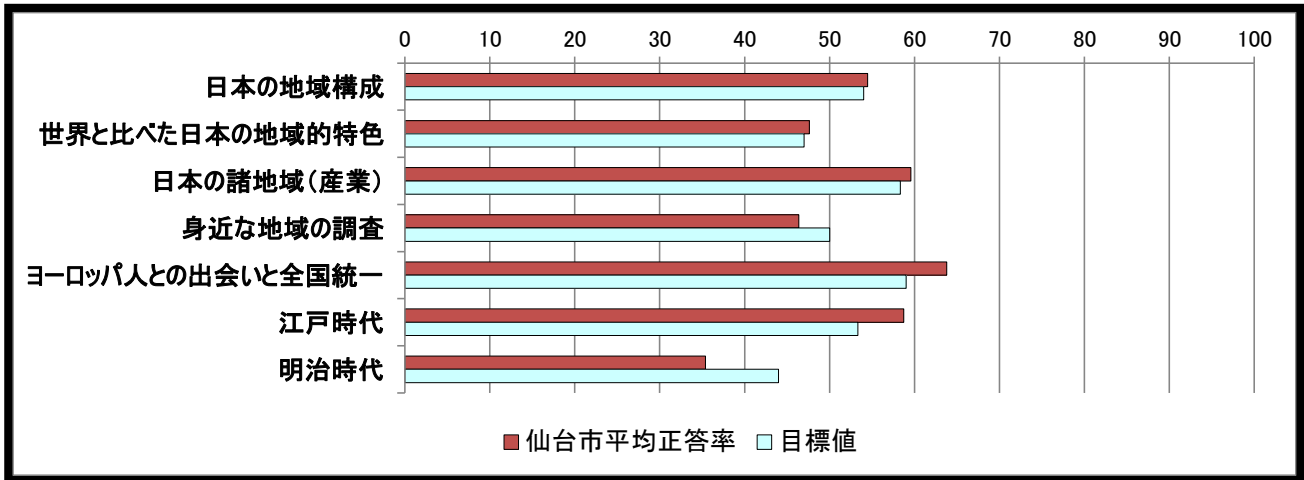
文章と図表の両者を比べ、相互の情報の不足を補いながら、説明に必要な要件や文言などを見極め、表現することに課題がある。説明は、調べることを羅列するだけでは、十分ではない。

指導に当たっては、わかりやすい説明をするための効果的な図表等の使い方について考える力を育成する指導が必要である。

【 中学校3年生 社会 】

分析結果

目標値 52.1% 市平均正答率 52.9%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ①「江戸時代」では目標値を5.4ポイント上回っている。
- ①「明治時代」では目標値を8.6ポイント下回っている。
- ②「江戸時代」の鎖国政策についての理解を基に、資料の特色を考えて表現する設問で、目標値を大幅に下回っている。

指導改善の方策

① 近代日本における理解を深めるために

下関条約についての設問では、条約により獲得した領土である台湾と遼東半島の位置を確実に把握しているかが求められている。誤答から、遼東半島と南樺太の知識や位置関係が曖昧なまま理解していることが考えられる。ポーツマス条約の南樺太割譲、韓国併合による植民地化と合わせて、歴史の流れとともに理解させる指導が大切である。

指導に当たっては、近代日本における対外関係について、単に地名のみならず地理的な位置関係についても取扱う必要がある。また、明治時代の大きな流れの中で領土の確定や植民地化が進むことから、諸条約および年代を押さえながら、地図帳や地図資料を有効に活用して地理的な位置関係を理解させるようにし、様々な社会的事象を関連させながら指導していくことが重要である。

② 歴史的事象だけでなく、その背景や関連事項を具体的な資料を挙げて説明できるようにするために

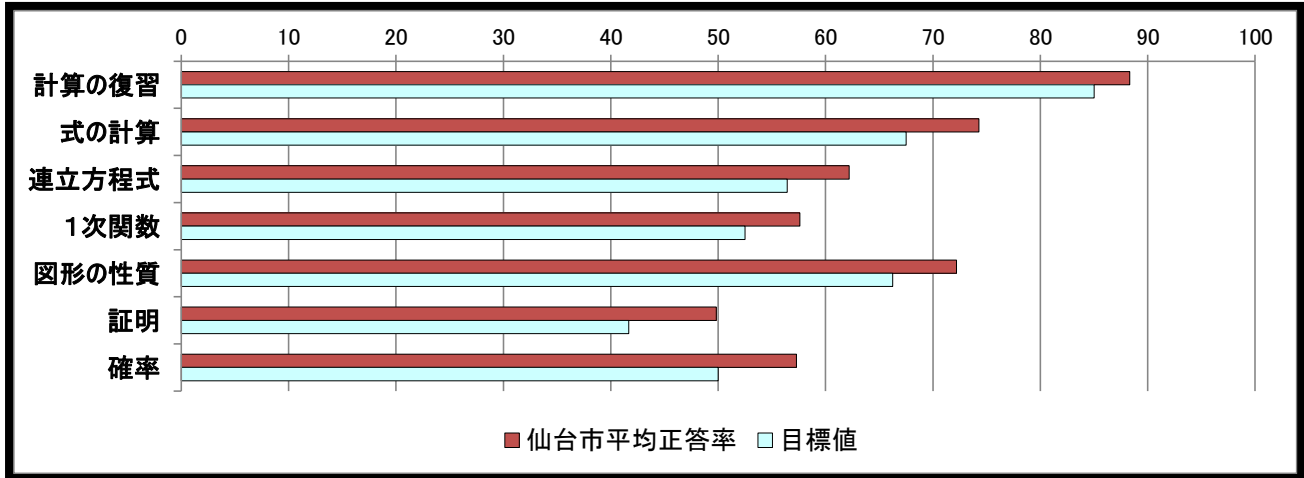
江戸時代の禁教政策と関連付けて、宗門改めがどのような役割を果たしていたかについての設問では、誤答率と無解答率を合わせると94.6%と非常に高くなっている。これは、17世紀初頭からの鎖国と禁教という外交方針の大きな転換を含めた時代背景や宗門改めの性格が十分に理解できていなかったこと、出題に用いられた資料が禁教と関連しているという視点で捉えられなかったことが原因と考えられる。

今後の指導に当たっては、安土桃山時代から江戸時代初頭にかけての対外関係を踏まえながら時代像を捉えさせ、朱印船貿易や島原・天草一揆等の歴史的事象の概要だけでなく、その背景や関連する事柄について、具体的な資料を活用しながら指導していく必要がある。その際に、それぞれの資料が持つ意味や役割をまとめさせることも重要である。また、伊達政宗と支倉常長を取り上げ、身近な歴史上の人物も、江戸幕府の外交方針に大きな影響を受けたことを理解させることも必要である。

【 中学校3年生 数学 】

分析結果

目標値 57.6% 市平均正答率 63.5%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○:成果 ●:課題)

- ①～⑥「式の計算」では目標値を6.8ポイント、「連立方程式」は5.8ポイント、「1次関数」は5.1ポイント、「図形の性質」は5.9ポイント、「証明」は8.1ポイント、「確率」は7.3ポイント上回っている。
- ①「連立方程式」では、2元1次方程式の解についての設問で、目標値を若干下回っている。
- ②「1次関数」では、問題解決方法を数学的に説明する設問で、目標値を7.7ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 2元1次方程式の解について正しく理解させるために

この設問は、2元1次方程式の解が連立方程式を成り立たせる x と y の値の組み合わせであることを理解していることがねらいである。

指導に当たっては、 x 、 y の値が有理数の範囲で考えることがポイントになる。また、 $ax+by+c=0$ の2元1次方程式では、係数 a 、 b の値(符号)の場合分けや変数 x 、 y の変域に注意するように指導することも大切である。

また、理解を深めるために、グラフを利用し解の存在する位置を確認させることにより、方程式とグラフの関係や、方程式の解と座標の関係の理解につなげることができるものと考えられる。

② 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、その関係を捉えられるようにするために

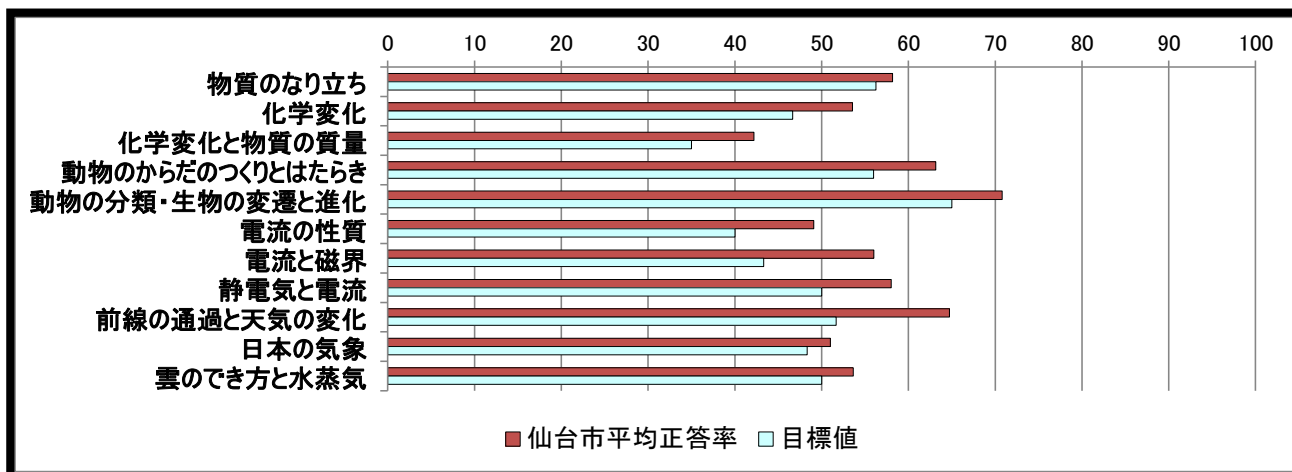
この設問では、事象が「 x の値に対し、 y の値がただ一つに決まっている」ことから、 y は x の関数となることに気付かせ、表やグラフや式を利用して課題を解決する方法を説明することをねらいとしている。無解答率が高いことについては、「説明する」ということですぐにあきらめてしまった生徒が多かったのではないかと考えられる。

指導に当たっては、具体的な事象の中から取り出した二つの数量関係が、どのような関係にあるか時間をとって考えさせ、関数関係が成り立つことに自ら気付かせることが大切である。そして1次関数であるとみなせた場合、どのように課題を解決するか、表・グラフ・式を適切に選択し、根拠となったことを含めて説明し伝え合う活動を取り入れていきたい。その際には、課題解決のために利用した表・グラフ・式を利用しながら説明するなど、教科書の「レポートの書き方」などを参考にして、その質を高めていく工夫も大切である。

【 中学校3年生 理科 】

分析結果

目標値 49.6% 市平均正答率 56.6%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①～⑧「化学変化」では目標値を6.9ポイント、「化学変化と物質の質量」では目標値を7.2ポイント、「動物のからだのつくりとはたらき」では目標値を7.1ポイント、「動物の分類・生物の変遷と進化」では目標値を5.8ポイント、「電流の性質」では目標値を9.1ポイント、「電流と磁界」では目標値を12.7ポイント、「静電気と電流」では目標値を8.0ポイント「前線の通過と天気の変化」では目標値を13.0ポイント上回っている。
- ①「物質のなり立ち」の炭酸水素ナトリウムの分解前後の物質の性質を問う設問では、目標値を6ポイント下回っている。
- ②「日本の気象」の気圧配置と風向の関係を問う設問では、冬に特有の季節風について、正答率が30.2%にとどまっており、誤答の中に正答を上回っている選択肢がある。その要因として、既習の知識を活用して考察する力や日常生活との関連で考える力が不足していることが考えられる。

指導改善の方策

① 炭酸水素ナトリウム分解後の性質の違いを説明できるようにするために

炭酸水素ナトリウムの分解後の性質についての設問は、今回の調査で最も正答率が低い問題である。炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムはどちらも白い粉末であるが、分解後の物質が実験前と明らかに違う性質を示す別の物質であることを確認することが重要である。その性質について正確に理解できるように指導過程を工夫したり、炭酸水素ナトリウムが重曹として医薬品やベーキングパウダーに利用されていることの理由を考える中から、水溶性やアルカリ性の強弱の違いに結び付けたりすることで知識の定着を図る必要がある。

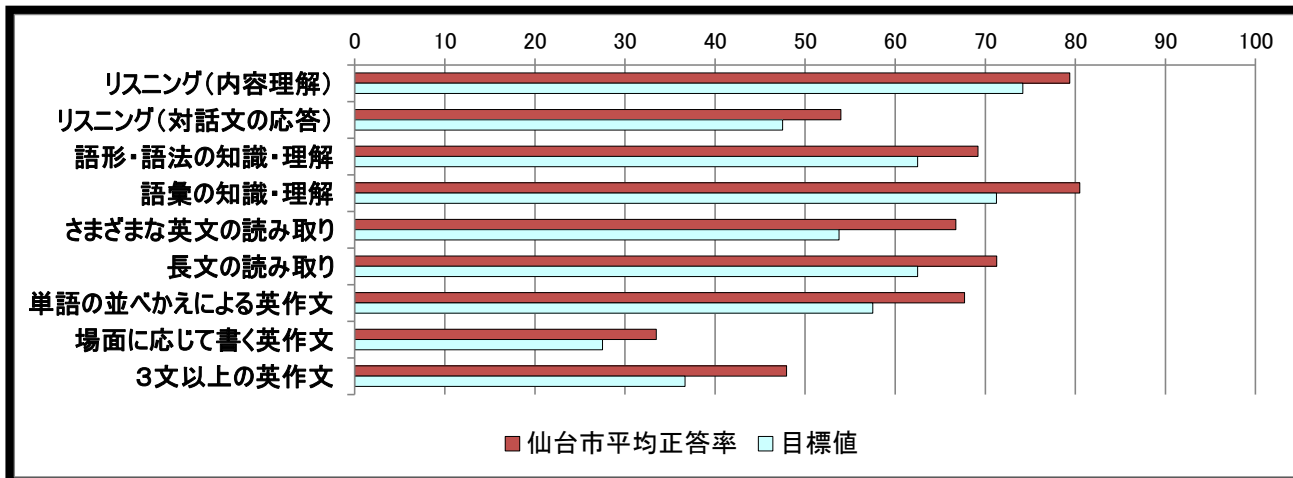
② 季節に特有の気圧配置が生じる理由を説明できるようにするために

季節風が吹く理由を答える設問では、冬に吹く季節風の原因が冬特有の気圧配置にあることを理解しているかどうか重要である。また、そのような気圧配置になる原因が、大陸と海洋のあたたまり方の違いにあることを見だし、温度変化と気流や気圧を関連付けて考える力を育成していくことが大切である。さらに、授業だけでなく、普段の学校生活においても気象の変化を意識させるための場の設定や働きかけが必要となる。

【 中学校3年生 英語 】

分析結果

目標値 58.0% 市平均正答率 66.4%



※2年生で学習した内容について、3年生の4月に調査を実施

※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

①～⑨全ての内容について目標値を5ポイント以上上回っている。

①「聞くこと」は、全体的に良好ではあるが、対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題で他の設問の正答率が60%を超えていたのに対して、正答率41.8%のものがあった。

②「書くこと」については、3文以上でまとまりのある内容を説明する英作文の正答率が40%を上回っている。それに対して、昨年に引き続き、場面に応じて書く英作文の正答率が目標値を上回っているが、27.8%にとどまっている。指定された条件のもとで表現することに課題がある。

指導改善の方策

① 様々な表現に適切に応じることができる力をつけるために

リスニングの問題では、空港でのMikaとBillの対話を聞き、東京で最も暑い月を4つの選択肢から一つ選んで解答することが求められている。正答の“August is.”が41.8%で最頻出値ではあるが、誤答例では“Summer is.”が36.8%となっており、“January 25 is.”の13.9%、“Monday is.”の6.9%を大きく引き離している。このことから、hotやsummerなどのキーワードを聞き取ることはできているが、wh-疑問文や既習単語の理解（この設問ではmonthの意味と発音）が不足していると考えられる。授業で英語を多用することによって英語に触れる機会を増やし、様々な表現に適切に応じることができる力を育成していくことが必要である。

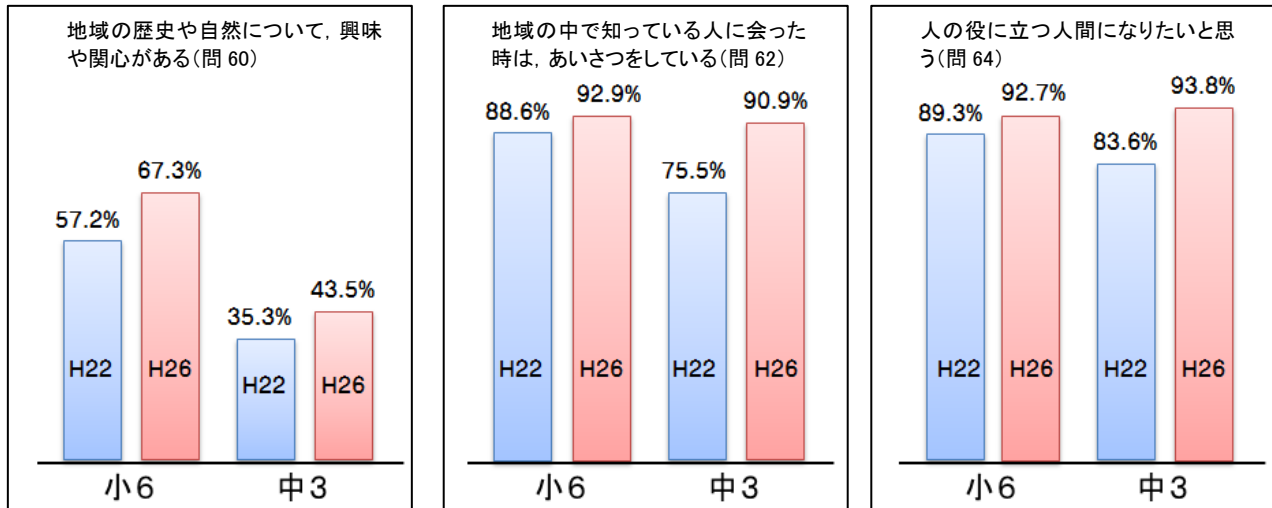
② 場面に応じてどのように質問するのか英語で文を書くことができるようにするために

英語でどこに行きたいかたずねる文を書く設問では、与えられた場面に応じて英語でどのように質問するのか、既習事項を総合的に用いて英語の文を作ることが求められている。生徒にとって、想定された場面に応じて、既習事項の中から適切な表現を選んで文にしたり、話したりするのは大変負荷のかかるものである。特に、疑問詞を用いた疑問文は、文の構造が複雑であり、正しく書くことは難しいものと考えられる。

与えられた場面にふさわしい英文をとっさに作る練習や、自分がたずねたいと思うことを、疑問詞を使って適切に質問する練習を普段の授業から取り入れていくことが必要である。

【分析結果 1】

自分と地域との関わりについて考えて行動したり、人の役に立ちたいと思う児童生徒が増加している。

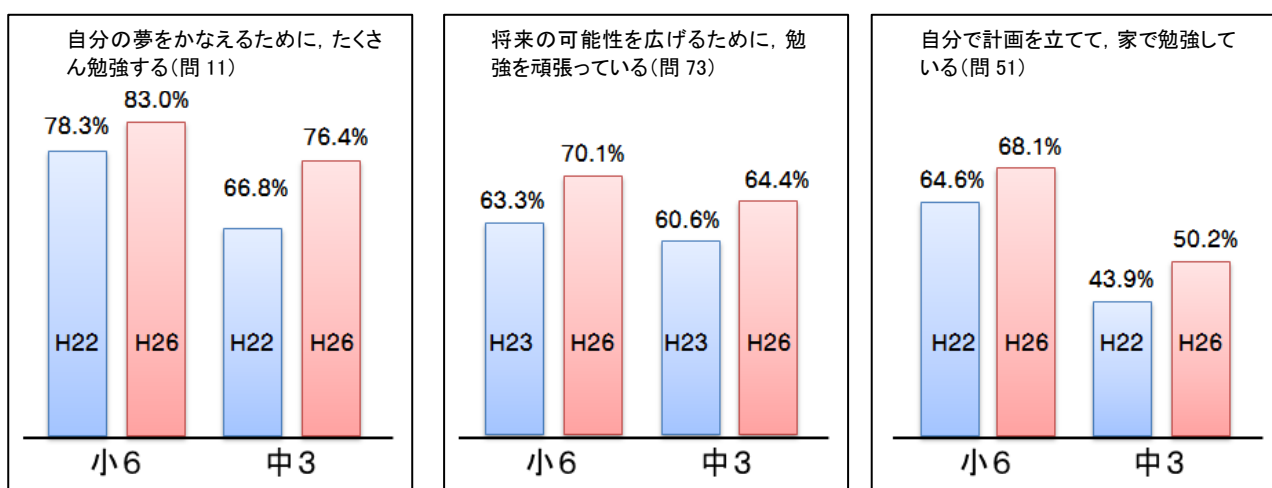


□指導改善の方策

- ・ 防災訓練や地域行事に児童生徒が参加する機会を増やし、人の役に立ったり、喜ばれたりする経験をさせることで、児童生徒の良い面を更に伸ばしていく。
- ・ 防災副読本「3. 1 1 から未来へ」を活用し、多くの人たちに支援していただいたことへの感謝の気持ちや、復興を担う世代としての自覚が持てるようにしていく。

【分析結果 2】

自分の将来に向けて、勉強を頑張っている児童生徒が増加している。

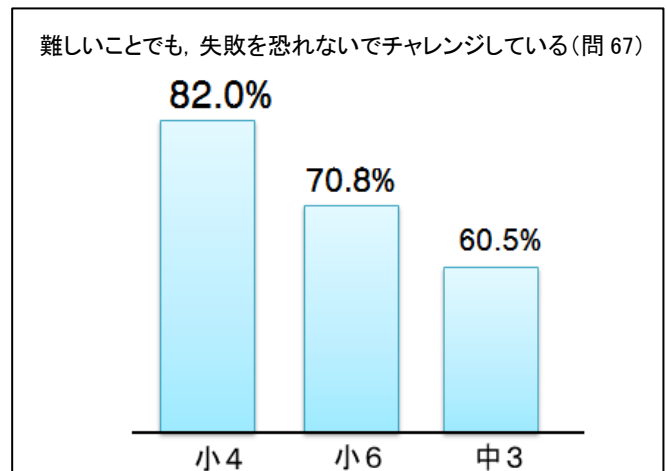
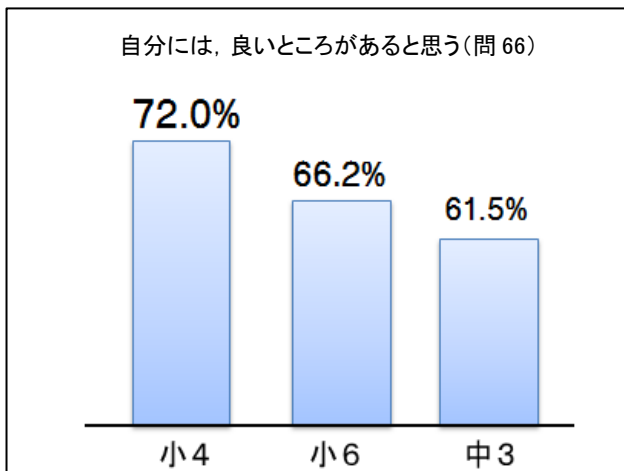


□指導改善の方策

- ・ 児童生徒が学校での学習と自分の将来をつなげて考えることができるよう、「仙台自分づくり教育（仙台版キャリア教育）」の更なる推進を図っていく。
- ・ 宿題や予習・復習などの家庭学習を児童生徒が自主的に進められるよう、学習のねらいや意義、学習の方法の具体例を示しながら指導するとともに、学校と家庭が連携・協力しながら家庭学習の習慣化を図っていく。

【分析結果 3】

学年が上がるにつれて、自分を肯定的に見たり、積極的にチャレンジしたりする児童生徒が減少している。



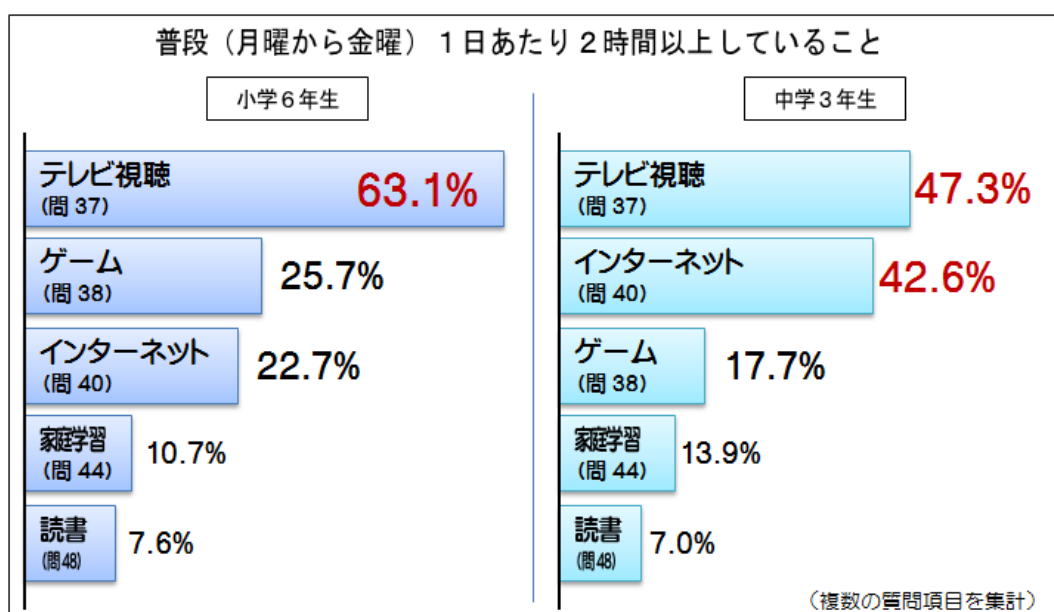
□指導改善の方策

- ・ 生活や学習の様々な場面で、自分で選んだり、決めたりする試行錯誤の経験を積ませるとともに、その経験や成果を認めてあげるようにしていく。
- ・ 「昨日よりうまくできたね」、「自分の力で解決できたね」といった、肯定的な言葉が飛び交うような環境づくりを推進していく。

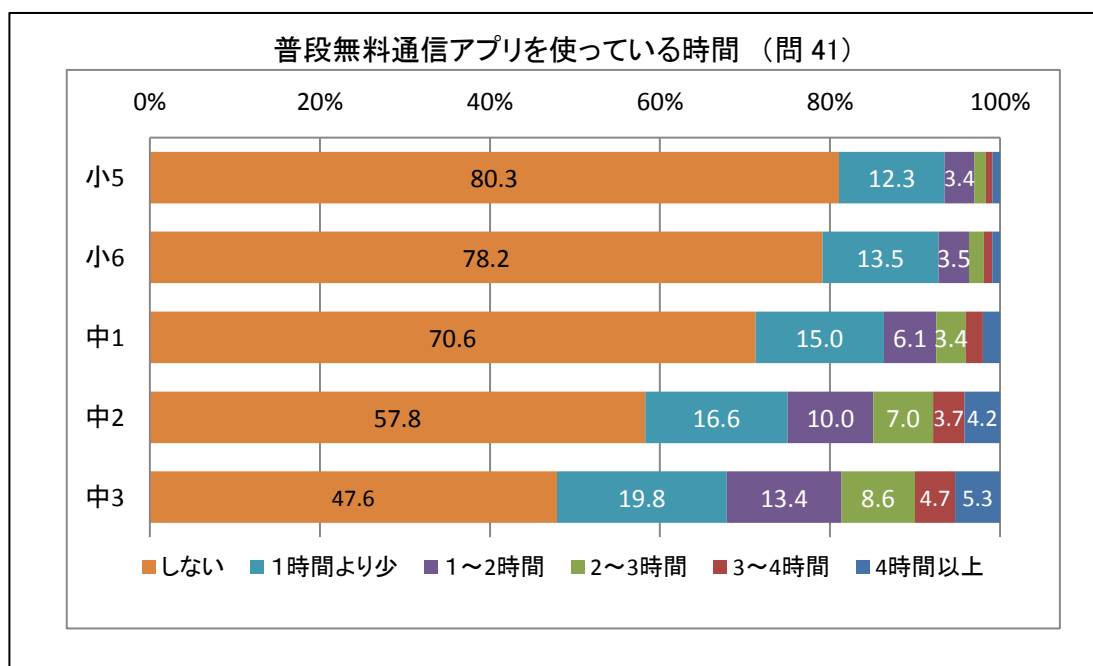
【分析結果 4】

テレビやインターネット、無料通信アプリ（LINE、カカオトークなど）の利用時間が児童生徒の学習時間や生活習慣に影響を与えている。

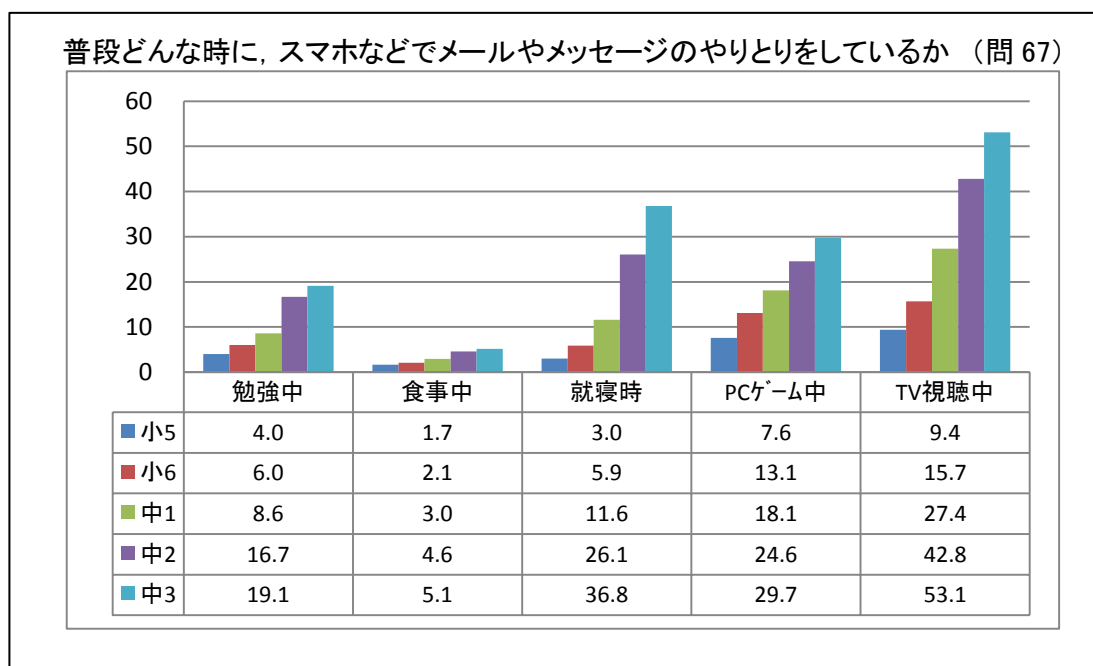
- 普段1日あたり2時間以上していることは、小学6年生ではテレビ視聴が最も多く、次いで、ゲーム、インターネットの順であり、中学3年生ではテレビ視聴に次いでインターネットが2番目となる。



- 普段1時間以上無料通信アプリ（LINE、カカオトークなど）を使っている中学3年生は30%を超えており、4時間以上使う生徒も5%ほどいる。



- スマホでのメールやメッセージのやりとりは、就寝時やテレビを見ているときに多く行われている。



□指導改善の方策

- ・ 「携帯電話を自分の部屋に持っていない」、「スマホやネットは1時間まで」といった具体的な約束事を家庭の中で決めるよう啓発していく。
- ・ 保護者や教員を対象とした情報モラルについて研修会や講演会を企画するなど、児童生徒だけでなく大人も一緒に学ぶ機会を増やしていく。

※仙台市生活・学習状況調査

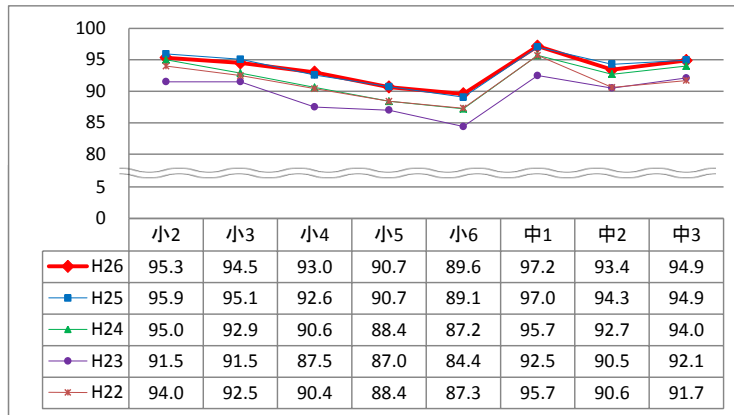
- ・ 児童生徒の生活習慣や学習状況を調査・分析するため、小学校2年生以上を対象に、平成22年度から実施。
- ・ 本年度は、インターネット接続機器やスマートフォン、無料通信アプリの利用状況を詳しく調査するため、新規項目を追加して実施。
- ・ 今後、本調査結果をもとに改善のための手立てを学校や保護者に知らせ、協力・連携して改善を図る。

仙台市生活・学習状況調査の領域別の分析結果

〈学校生活〉

- 学校のきまりを守っている割合は、中学校入学時にその割合が高くなるが、その後また減少してしまう傾向がうかがえる。

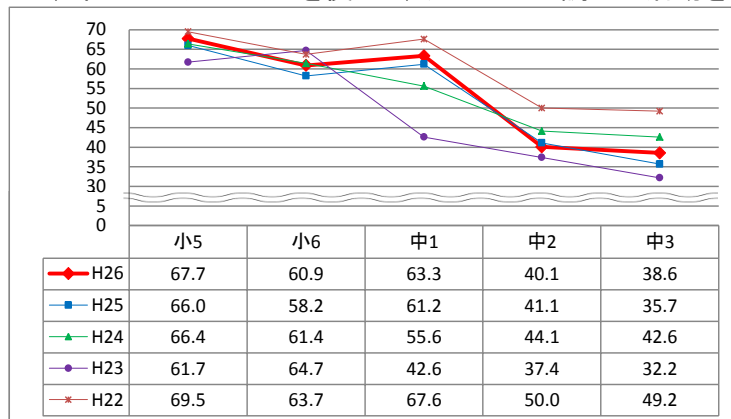
【3】学校のきまりを守っている。



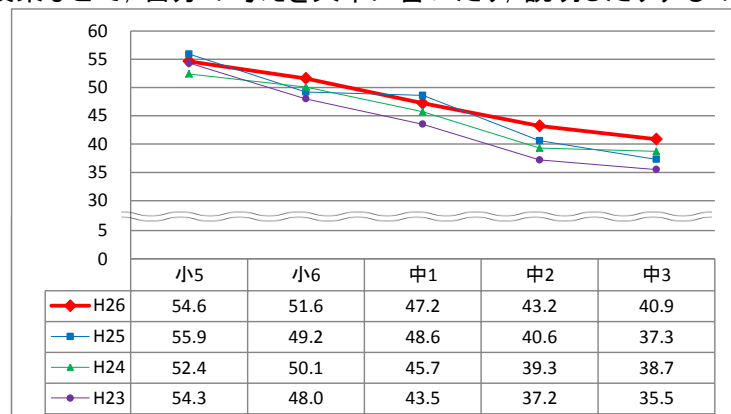
〈授業〉

- ふだんの授業で、本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っていると回答した割合は、中学生で減少している。
- 中学2，3年生で、自分の考えを文章に書いたり，説明したりするのが好きであると回答した生徒の割合に，増加傾向がうかがえる。

【5】ふだんの授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う



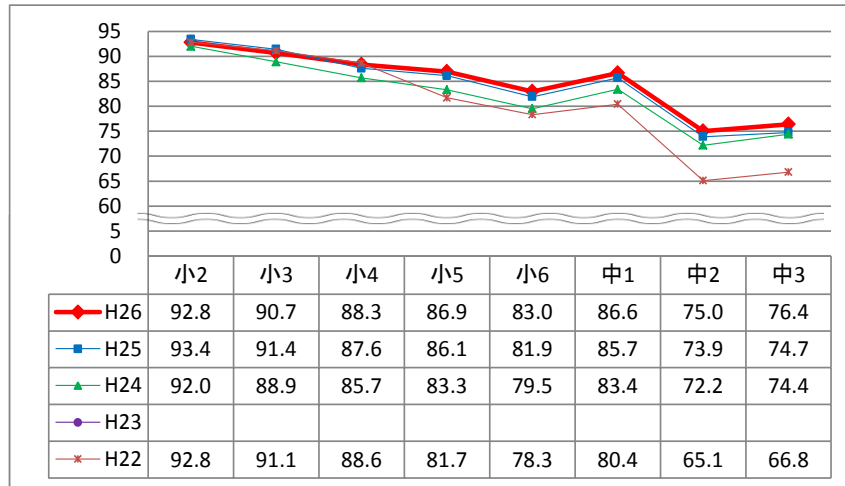
【8】学校の授業などで、自分の考えを文章に書いたり，説明したりするのは好きな方だ



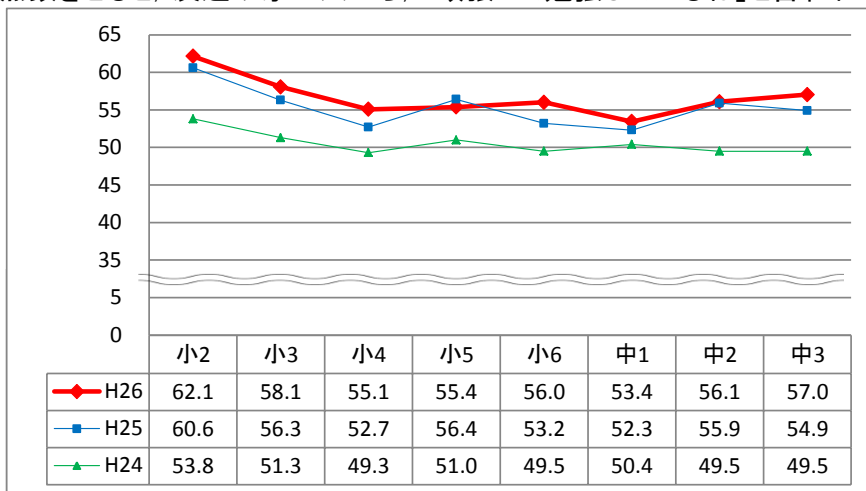
〈学習意欲〉

- 自分の夢をかなえるために、たくさん勉強すると回答した児童生徒の割合に、増加傾向がうかがえる。
- 良い点数をとったときに、「頑張っているね」と言われる児童生徒の割合に、増加傾向がうかがえる。
- 中学生になると、夢をかなえるために、何をどのように勉強すればよいのか考える生徒の割合が、大きく減少する傾向がうかがえる。

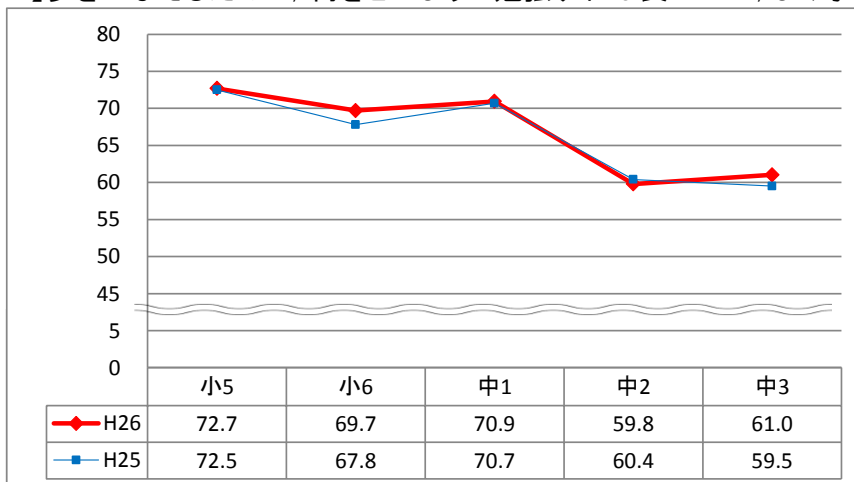
【11】自分の夢をかなえるために、たくさん勉強する



【22】良い点数をとると、友達や家の人から、「頑張っているね」と言われることがある



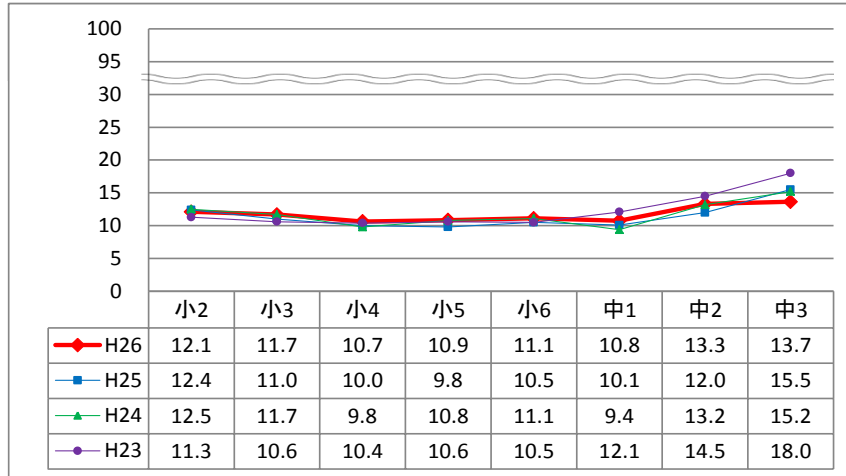
【25】夢をかなえるために、何をどのように勉強すれば良いのか、よく考える



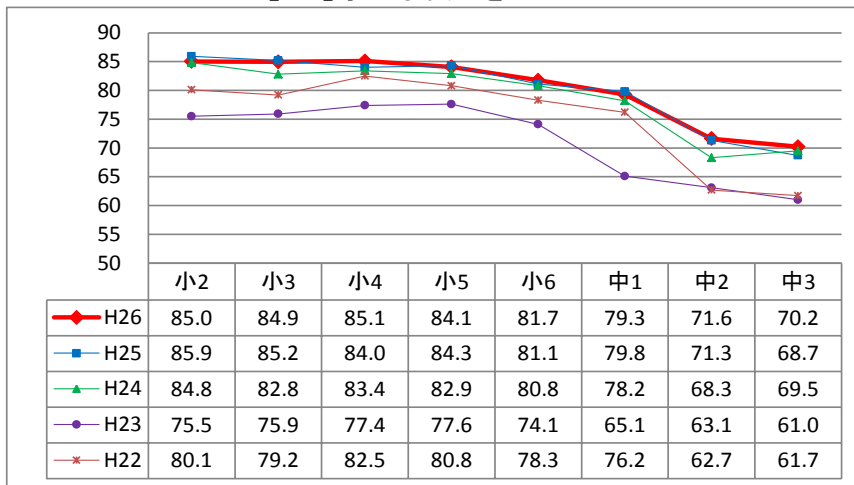
〈家庭生活〉

- 全体的に大きな変化は見られないが、1割を超える児童生徒が朝食を食べずに登校する日があると回答している。中学3年生ではやや減少傾向がうかがえる。
- 家の手伝いをしていると回答した児童生徒の割合が増加しており、特に中学生で大きく増加している。
- 放課後や休みの日に外で遊んでいると回答した児童（小学2年生～4年生）の割合は、震災前の割合まで戻ってきている。

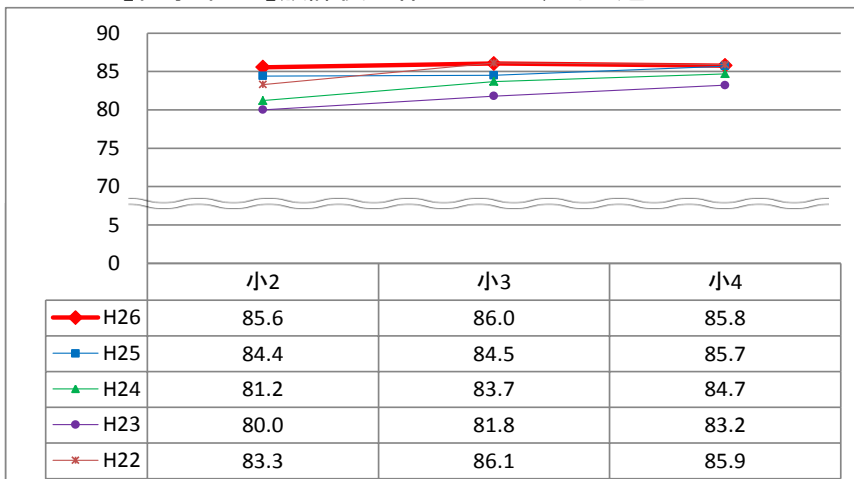
【27】朝食を食べずに登校する日がある



【31】家の手伝いをしている



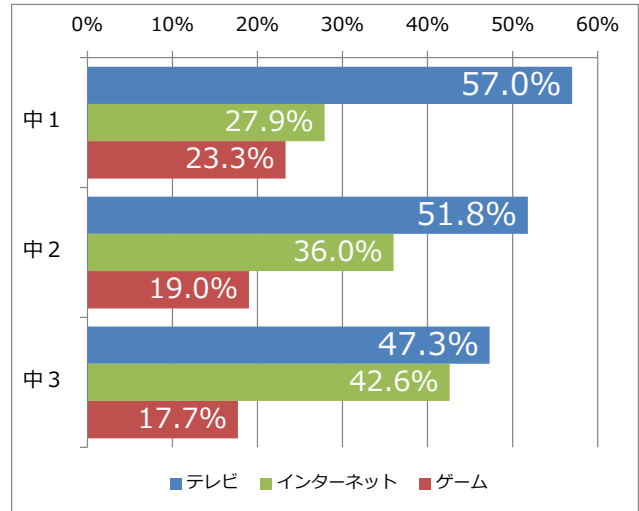
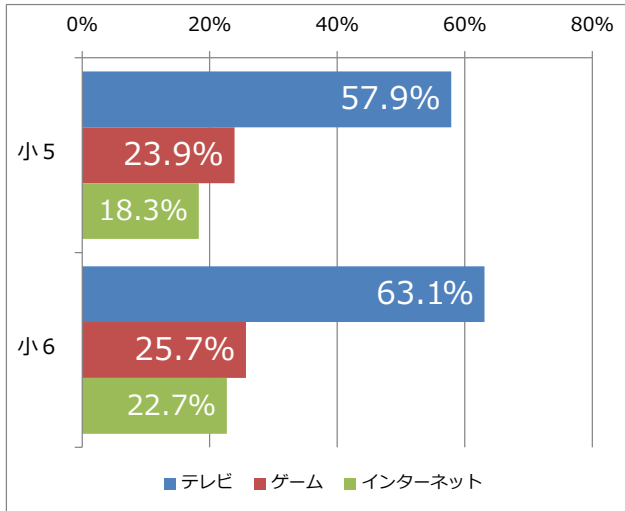
【低学年23】放課後や休みの日に、外で遊んでいる



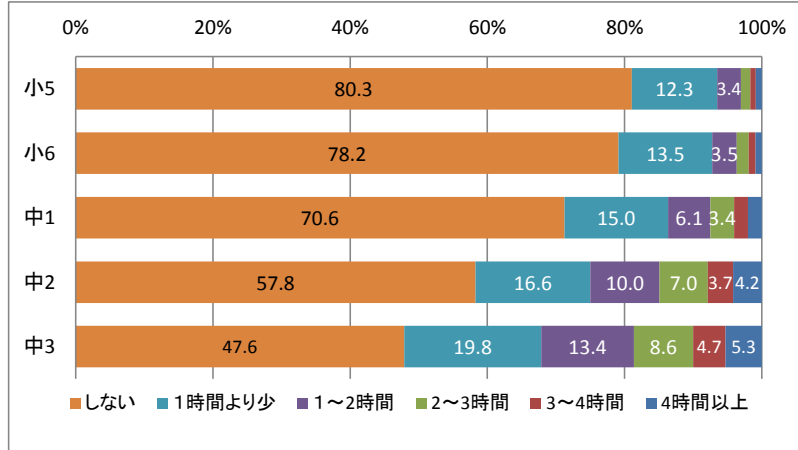
〈自由時間〉

- 1日2時間以上していることの割合を比較すると、小学生ではテレビ視聴が約6割を占めている。中学生では、テレビ視聴が徐々に減り、インターネットが増加していることがうかがえる。
- 普段1時間以上無料通信アプリを使っている割合は、学年が上がるにつれて増加している。中学3年生では30%を超え、1日4時間以上使う生徒も5%程度いる。
- スマホでのメールやメッセージのやりとりは、就寝時やテレビを見ている時に多く行われている。

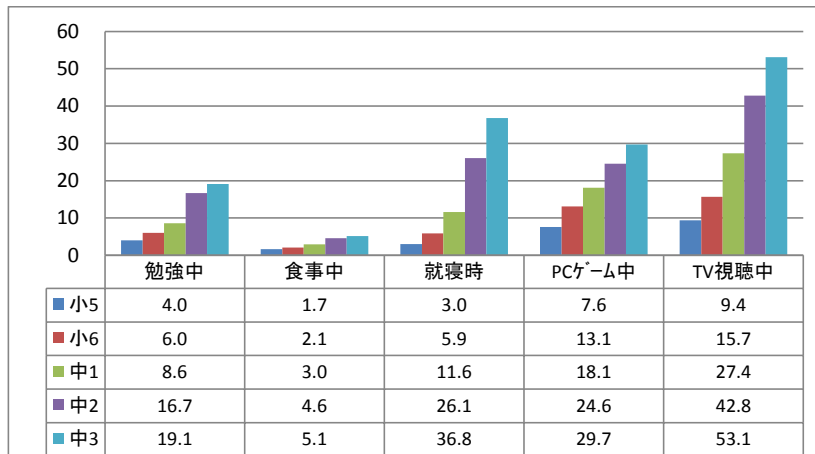
1日に2時間以上していること（設問【37】【38】【40】より作成）



【41】LINE, カカオトークなどの無料通信アプリを1日どのぐらい使っていますか



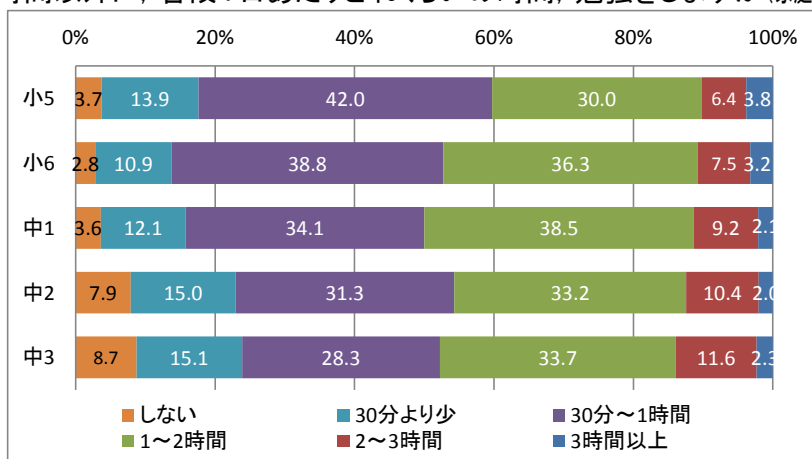
【42】普段次のような時にスマホなどで、メールやメッセージのやりとりをすることがありますか（複数回答）



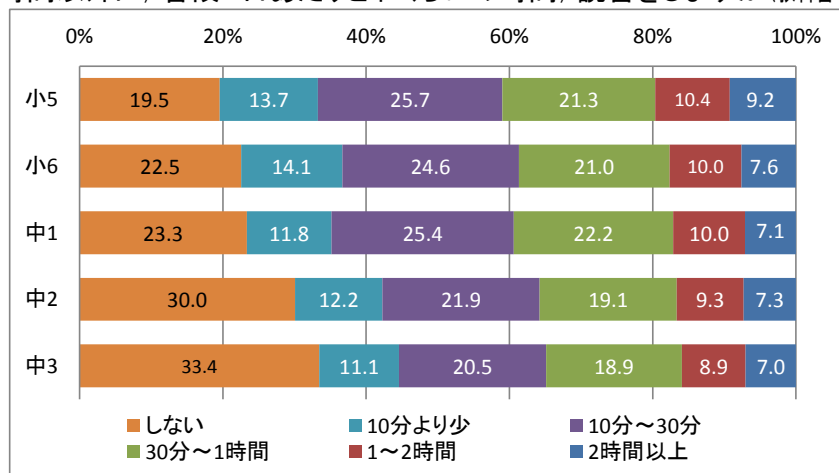
〈家庭学習等〉

- 学校の授業時間以外に2時間以上勉強していると回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて、やや増加している。一方で、全くしないと回答した割合は、中学1年生から中学2年生にかけて増加している。
- 読書を全くしないと回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて増加し、中学2年生、3年生では3割を超えている。
- 自分で計画を立てて、家で勉強していると回答した児童生徒の割合に、増加傾向がうかがえる。

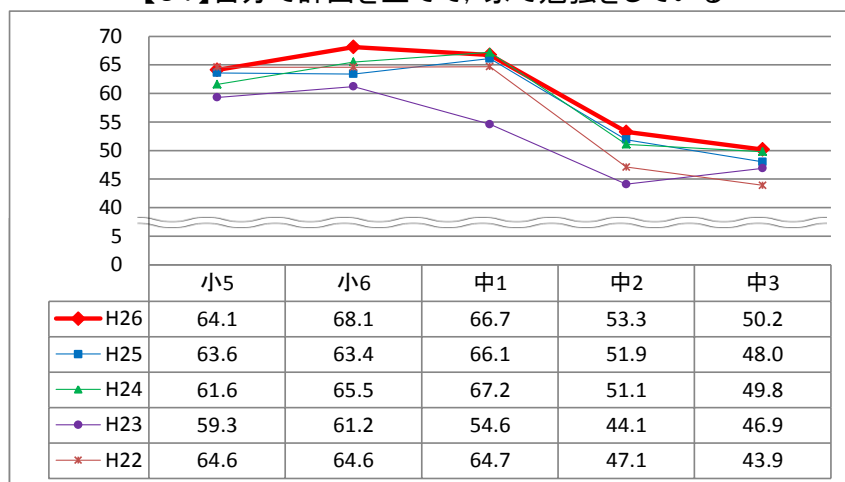
【44】学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(家庭教師・学習塾での勉強は除く)



【48】学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)



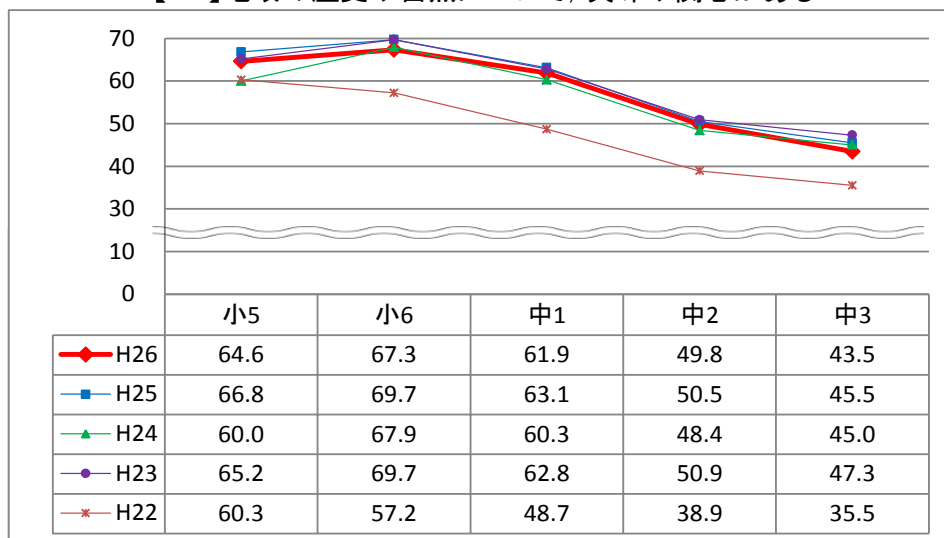
【51】自分で計画を立てて、家で勉強をしている



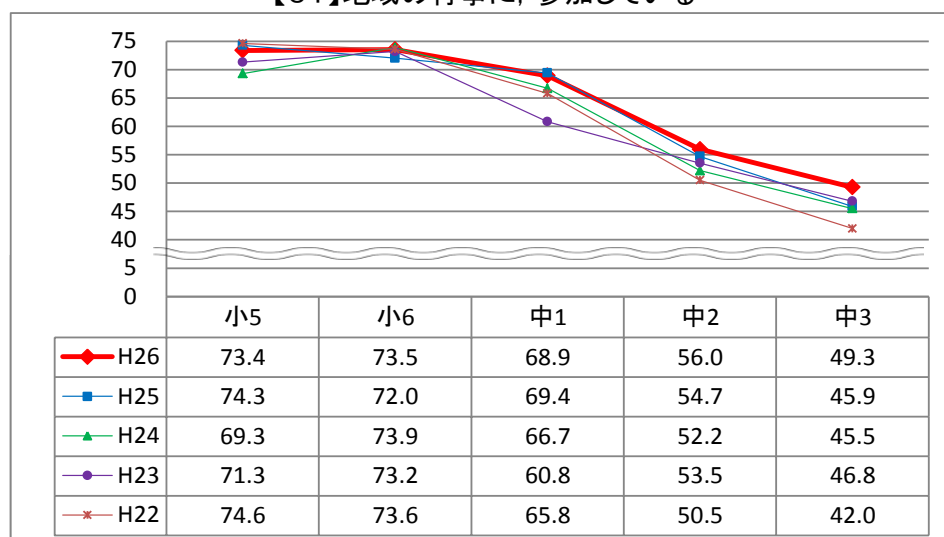
〈社会・地域とのかかわり〉

○ 平成22年度に比べ、地域との関わりについて考えて行動している児童生徒の割合に、増加傾向がうかがえる。

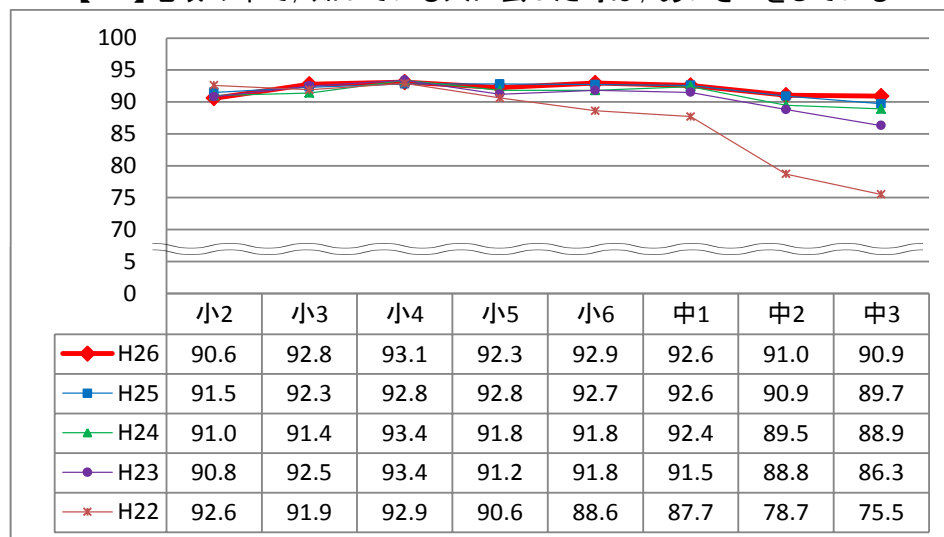
【60】地域の歴史や自然について、興味や関心がある



【61】地域の行事に、参加している



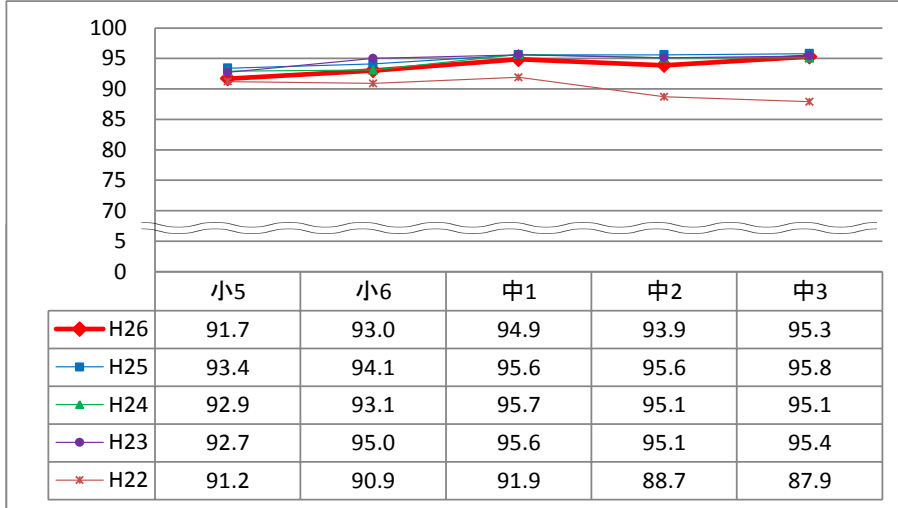
【62】地域の中で、知っている人に出会った時は、あいさつをしている



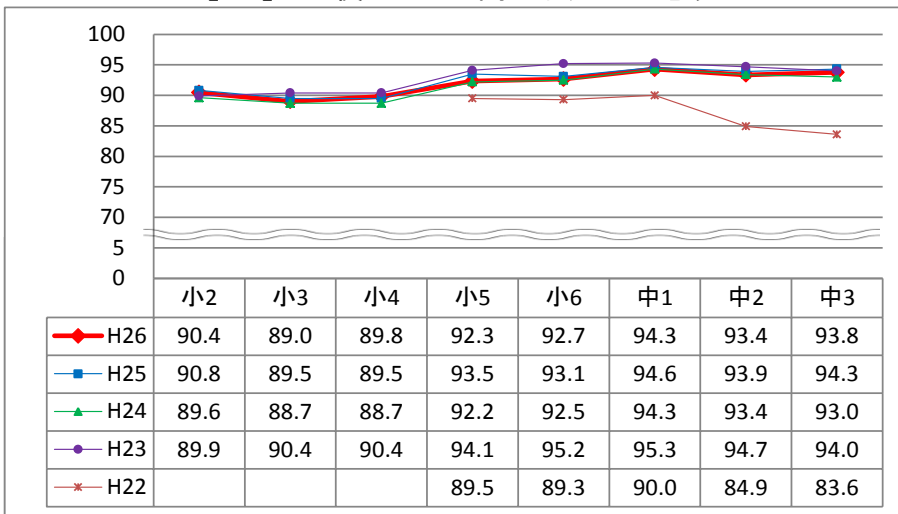
〈道徳心・挑戦・夢〉

- 平成22年度に比べ、人の気持ちが分かる人間になりたい、人の役に立ちたいと思うと回答した児童生徒の割合に、増加傾向がうかがえる
- 学年が上がるにつれて、自分を肯定的に見たり、積極的にチャレンジしたりする児童生徒の割合が減少する傾向がある。

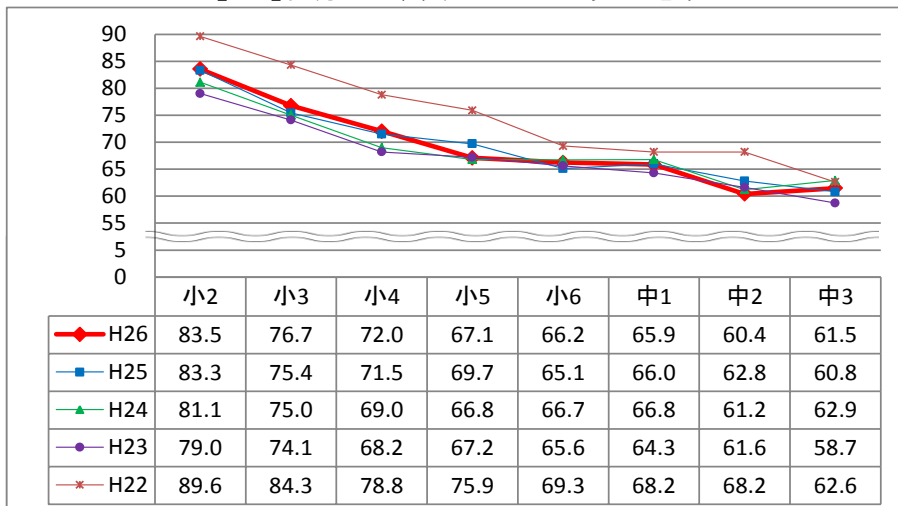
【63】人の気持ちが分かる人間になりたいと思う



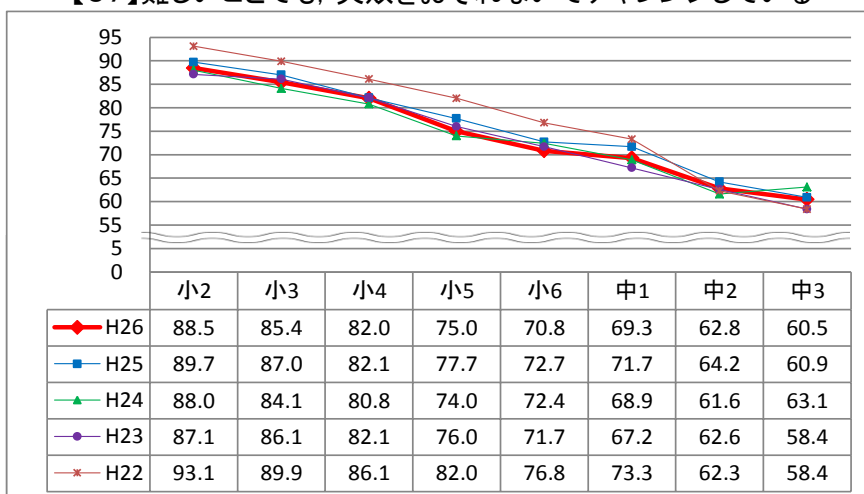
【64】人の役に立つ人間になりたいと思う



【66】自分には、良いところがあると思う



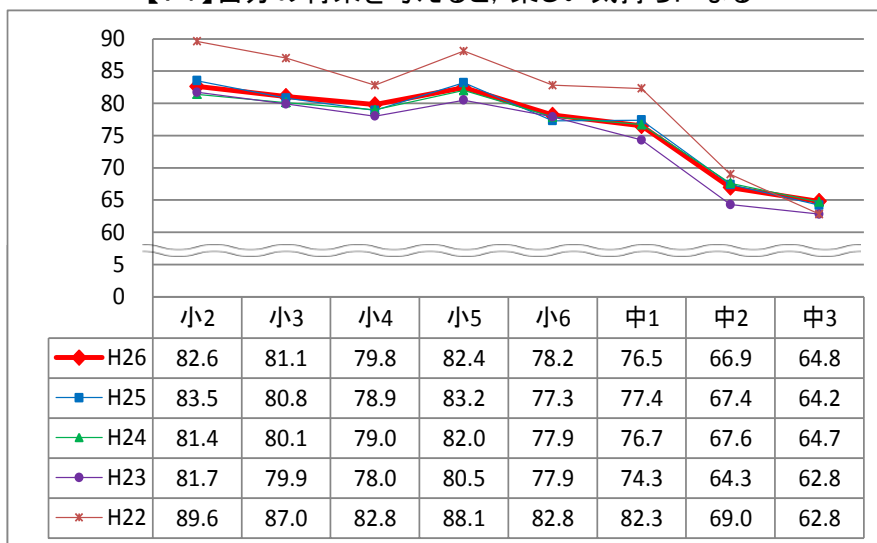
【67】難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている



〈自分づくり〉

- 自分の将来を考えると、楽しい気持ちになると回答した児童生徒の割合は、中学生になると減少する傾向がある。
- 将来の可能性を広げるために勉強を頑張っていると回答した児童生徒の割合に、増加傾向がうかがえる。

【71】自分の将来を考えると、楽しい気持ちになる



【73】将来の可能性を広げるために、勉強をがんばっている

